

若い力を世のために！

港区で七五九人が新成人に

無限の可能性を秘めた港区の若い力が一堂に会し、決意も新たにそれぞれの飛翔を始めました――。「成人の日」の一月十一日、港区では七五九人（男三七九人・女三八〇人）が昨年十月現在、前年より八人増が新たに成人となりました。このうち五三三人（男二七五人・女二四八人）がホテル大阪ベイタワー（弁天）で催された「港区成人の日 記念のこい」に参加し、新たな門出を祝福されました。

「感謝忘れず成長誓う」と新成人代表、区長祝辞

午前十時からの「第一部・記念式典」では国

歌・市歌斉唱に続いて祝辞が贈られました。

◆「地域福祉に力を」と実行委員長

（この中で主催者を代表して武智虎義^{たけちこうよし}実行委

委員長（一般財団法人大阪市コミュニティ協会港

区支部協議会会長、社会福祉法人大阪市港区社

会福祉協議会会長）は「世界は急激な変化と多

様化の中にあり、日本では少子高齢化の中、特

に東日本大震災以降、地域の助け合いが強調さ

れている。この中で、皆さんの柔軟な発想と知恵、支え合いの精神を発揮し、地域福祉の向上に貢献されることを願う(要旨)と特に福祉分野への貢献に期待を表明しました。

◆「港区の歴史を踏まえて」田端区長



→五三三人の新成人が参加して盛大に催された「港区成人の日 記念のつどい」(一月十一日午前、ホテル大阪ベイタワー)(并大で

たはたのび

同じく主催者の田端尚伸・港区長は「港区は大正十四年に発足し、昭和十八年には今の区域となり、人口一千八万を誇ったが、幾多の高潮被害や昭和二十年の大空襲などで九千人弱に激減。ここから戦後復興が始まった。区画整理事業を実施し、区域の九割を二倍高(かさあ)上げし、広い道路や公園を整備した。この中では地権者が自分の土地の四割を差し出すなどの献身的な協力があった。戦後四十五年かけて住民と行政が力合わせて街の価値を高め、豊かな「コミュニティ」を築き上げた。今、港区は、交通・商業の要衝である東部、国際レベルの施設もある中央部、大阪の観光戦略の重宝(たから)エリアとしてクルーズ船も



→「地域福祉に若い力を」と呼びかける武智虎義実行委員長(上)と、「いいまち一緒に作りましょう!」と呼びかける田端尚伸区長(下)

やって来る西部」と都市としてのランドマークが豊富で、ポテンシャル可能性の高い街になった。一方で少子高齢化が進み、地域の繋がり(つな)を一層強め、「コミュニティを更に活性化(かっせい)し、将来に亘(わた)って活力と潤いのあるまちづくりを進めることが求められている。そうした課題に皆さんの若い力を発揮してほしい。いいまち一緒に作りましょう!」(要旨)と特に港区の歴史を踏まえてのまちづくりに期待を表明しました。

◆「人生の勝利者」と西市議

また来賓の西徳人市会議員は「これまでの二十一年に感謝し、これからの二十一年で社会貢献を。米国の詩人の言葉に『青春とは年齢ではなく心



→「人生の勝利者」と期待を述べる西徳人市会議員(上)と、区長挨拶と関連つけて港区の歴史パネルを鑑賞する参加者(下)

のあり方を『つ』とある。これから多くの困難を経験されるだろうが、高い志と自分をしっかりと持って乗り越え、『生涯青春』を謳歌し、最終的に人生の勝利者となれんことを（要旨）と特に心の持ち方に忠告を贈りました。

◆「感謝忘れず成長誓つ」と新成人代表

このあと来賓・主催者の紹介、次いで港区地域女性団体協議会と港区母と子の共励会からの花束贈呈があり、最後に新成人を代表して井ノ口拓臣さんと木下優さん（共に市岡東中学校卒）が「成人を迎え、社会という大海へ胸を張って船出していきたい。大人の仲間入りと共に、自分を振り返り、夢や目標に向かい、一步一步進む過程を大切にしながら、成果を挙げ、自分を磨くことで、他人を認め、自分を認められるよう、大人の階段を駆け上っていく。地球上には明日の命も保証されず、恐怖に怯える人がある中、自分たちの恵まれた環境に甘えず、当たり前前のことを当たり前にする幸せを胸に日々精進し、自身を高めていく。これからの人生、多くの失敗があり、楽しいことや嬉しいこともあろうが、辛いことの方が多いと思

←「感謝を忘れずこれからの人生を歩む」と力強く『成人のことば』を読み上げる新成人代表の（左から）井ノ口拓臣さん・木下優さん



つが、ひとつ二つ壁を乗り越え、『生涯学び』の言葉の通り、何事も吸収し、方向性を見い出し、歩んでいく。こうして成人式を迎えられたのは、育て支えて下さった両親や家族、導いて下さった先生方、温かく見守って下さった地域の方々、

そして共に歩んだ仲間たちのお陰。この感謝の気持ちとふるさと港区で育ったという誇り、そして成人としての決意を忘れず、これからの人生を力強く歩んでいく（要旨）と「成人のことば」を読み上げました。冷静で堂々とした口調、爽やかで凛とした姿勢が印象的でした。

◆各中学校出身者がスライド上映など

会場後方には、戦前の港区や第一次大戦での空襲被害、戦後の高潮被害や区画整理事業の様子など、港区の近代の歴史を概観できる写真パネルが掲示され、田端区長のあいさつと関連づけて、休憩時間などを利用して熱心に鑑賞する新成人の姿も見られました。

続く「第一部」では、まず吉村洋文市長からの

「権利と同時に義務と責任も生じる。何事にも目標を持って前進しよう。地域に感謝し、今後は支える側」（要旨）とのビデオメッセージを上映。続いて平松克仁さんと藤田田月さん（共に港中学校卒）の総会司会のもと各中学校出身の運営委員が制作したスライドの上映や恩師の挨拶などがあり、会場は一気に白熱しました。

◆「自分を見失わず」と港中の恩師

←港中コーナーを司会する（右から）平松克仁さん・藤田巴月さん①と、懐かしい中学時代のスライドに沸く同中出身の新成人たち②



このうち港中コーナーでは、平松克仁さんと

藤田巴月さんの司会のもと、『遙か』（Green）をBGMに、体育祭や修学旅行や部活動の模様を記録したスライドを上映。続いて恩師四人がビデオを通じて「あの頃は毎日楽しかったな」「一人一人の顔が浮かぶ」「活躍を期待する」「自分を見失わず、周りをよく見て進め」「市岡におるからいつでもおいで」などと呼びかけました。

◆「体験を大切に」と市岡東中の恩師

市岡東中コーナーでは、松尾咲さんと姥谷美樹さんの司会のもと、まず『栄光の架橋』（オル

←市岡東中コーナーを司会する（左から）松尾咲さん・姥谷美樹さん①と、「体験を大切に」と激励を贈る女性恩師（左は手話通訳者）②



ゴール』（ゆず）をBGMにしたビデオを通じて恩師四人が「元気にそれぞれの道を歩んで」「自分の行動に責任もつて」などと期待の言葉を贈り、続いて女性恩師が登壇、「これから大変なこととは一杯あるでしょうが、その一つ一つを大切に、乗り越えていけば、それらの点がやがて線となつて実を結ぶでしょう」と激励しました。

◆「焦らず一歩一歩」と市岡中の恩師

市岡中コーナーでは、田川雄一郎さんと檜さゆりさんの司会のもと、まず中学時代の学級写真をバックに男性恩師が「二十歳になつたら」といって急に変わる訳ではない。焦らず着

←市岡中コーナーを司会する（右から）田川雄一郎さん・檜さゆりさん①と、学級写真を背に「焦らず一歩一歩」と忠告を贈る男性恩師②



実に一歩一歩あゆんで」などと忠告。続いて『蕾』（コブクロ）をBGMに、入学式から修学旅行まで三年間の映像が流れました。

◆「素敵な経験を」と築港中の恩師

築港中コーナーでは、川畑智也さんと塚本悠さんの司会のもと、まず女性恩師が登壇し、「これから大人としての責任が伴い、大変だが、素敵な経験を一杯して成長して」とエール。次いで『Happy』『What Makes You Beautiful』『共にOn the Drive』（reaction）をBGMに、修学旅行・文化祭・体育祭などに個人的なスナップも交えた映

←築港中コーナーを司会する（右から）川畑智也さん・塚本悠さん（上）と、「素敵な経験を一杯して」とエールを贈る女性恩師（下）



像が映し出され、会場を沸かせました。

◆「責任もって生きていく」港南中卒業生

港南中コーナーでは、山本彬人さん（上）と宇藤豪祐さんと岡野安結美さんの司会のもと、出席の卒業生全員が登壇、「よく父や母よ、ただありがとう」「よくこれ以上ない幸せを抱きしめ生きていく」と父母への感謝を吐き出した『父母唄』（G Reenen）をBGMに、その歌詞と中学時代の映像を重ねたスライドを上映、「成人になった喜びを力に、責任もって生きていく」との唱和で結びました。

—以上、どの学校の「コーナー」でも、懐かし

←港南中コーナーを司会する（右から）宇藤豪祐さん・山本彬人さん・岡野安結美さん（上）と、壇上で懐かしいスライドに見入る同中卒業生（下）



い光景が映し出されたり、恩師が登場したりする度に拍手や笑いごとと起こり、会場はさながら壮大な同窓会の雰囲気でした。

なおこの催しは、社会福祉法人港区社会福祉協議会・一般財団法人大阪市コミュニティ協会 港区支部協議会・港区選挙管理委員会・港区役所から成る実行委員会が主催、港区青少年指導員連絡協議会・港区青少年福祉委員連絡協議会が協力、区内の各種団体・企業が協賛しました。

.....
「港区成人の日 記念のつどい」が終わった後、オーク広場で出身中学校ごとに群れる新成人たち



将来ビジョンなど議論

区政会議 町会の位置づけ懸念も



→港区の将来ビジョンや来年度運営方針について意見が交わされた、平成二十七年第三回港区区政会議Ⅱ一月二十七日夜、港区役所

区政に区民の声を反映させよう。一月十七日に港区役所で今年度第三回(新メンバーでは第二回)の港区区政会議が開かれ、区の将来ビジョンなどについて意見が交わされました。委員四十九人中三十八人が出席、田端尚伸・港区長と職員二十数人が同席。武智虎義(たけちこうぎ)議長(市岡地域活動協議会代表)と松尾フサ子(まつおふさこ)副議長(港区地域女性団体協議会代表)が議事を進めました。

◆将来ビジョンに「空き家対策」追加

中心議題の一つ「港区将来ビジョン」と港区基本計画の改定方針については区長が説明に立ち、二〇一七年度の将来像を想定している現在の同ビジョンを、一九年度を想定した新しいビジョンへ見直すとして、①まちづくりの五本柱の一つ「安全・安心・快適なまちづくり」の施策に「あきや空き家対策」を加えた②同じく「健やかに生き生きと暮らせるまちづくり」の施策に「地域包括ケアシステムの構築」と「複雑深刻化する福祉課題に対するセーフティネットの強化」を加えた③同じく「子育て世代が魅力を感じるまちづくり」のタイトルを「『よもぎの学び』と『子育て世代』を応援するまちづくり」に改めた④同じく「訪れたい魅力と活あふれるまちづくり」の施策を「地域資源を活かしたまちの活性化」「観光施策と連携した築港エリアのにぎわい・まちづくり」「まちづくりに向けた行政資源等の活用」にそれぞれ改めた一などを報告。

また改定するビジョンの「重点」として「地域活動の新しい担い手の発掘」「自主防災組織体制の強化」「バリアフリー化に向けた関係機関への働きかけ」「介護保険法改正を踏まえた高齢者対策」「健康寿命の延伸」「在宅医療・介護の連携の推進」「子育てしやすい環境の整備」「弁天駅前区画整理記念事業の推進」「築港地区のにぎわいづくり」などを強調しました。

◆防災リーダー育成に九七万円

今一つの中心議題である平成二十八年度港区運営方針(案の作成)については川上総合政策担当課長が説明に立ち、来年度に区長及び区シティー・マネジャーとして使える予算として①「ミニミニ子育て事業」に約一〇〇〇万円②地域活動協議会への補助事業に約七一九万円③広報紙配布事業の社会的ビジネス化に約七五〇万円④地域防災の活動支援に約五九万円⑤防

災リーダーの育成に約九七万田⑥子どもの安全見守り防犯カメラ設置事業に約一〇八万田⑦自転車利用の適正化事業に約八五万田⑧高齢者等支援者の見守り支援に約一四七五万田⑨児童虐待の防止の取り組みに約一〇万田⑩がん検診・特定健康診査の受診率の向上に約一八万田⑪学校ボランティア事業(発達障害サポート)に約三八九万田⑫築港・天保山地区まちづくり計画策定に向けた調査検討業務に約五三三万田などを算定していることなどを報告しました。

このほか会各では、「直近の三部会(子ども青年、防災防犯、福祉)ではどんなことが話し合われたか」「区画整理記念事業への意見公募ではどんな意見が寄せられたか」などについて報告があり、それらに対する意見表明・質疑応答が行なわれました。その中では次のようなやり取りがありました(本紙で抜粋、内容調整)。

◆まちづくりの前進を願う意見

「地域活動に参加したことがない割合が二五割(二〇一〇年度の区民モニターアンケート結果)であるが、何となくないか」(尾万委員)→「コミュニケーション育成事業では、コミュニケーション育成会

←議事を進行する(右から)武智虎義議長・松尾フサ子副議長①と、あいさつする田端尚伸・港区長と港区役所の各担当課長②



議のもとで各行事に実行委を立ち上げ、企画段階から公募の区民の参加をいただいており、区民まつりでは実行委運営に移って大きな成果が上がっている。まず地域行事や「コミュニケーション事業に参加してもらうことが大事と思う」(区長)「住宅供給など子育て層への支援は進んでいるのか」(市田委員)→「住宅供給については具体的な取り組みはできていないが、子育てを支援する情報発信はしていきたい。八幡屋公園などでは地域と連携した(子育て層向けの)取り組みがされている」(区長)

「天保山まつりに十回前から実行委員として

参加した。が、予算が縮小され、参加・協力している方の昼飯代も交通費も出ない。お金だけの問題ではないが、今の水準で本当に港の玄関にふさわしい祭りになるのか。市民協働といながら実行委任せで良いのか。築港の観光資源は素晴らしい。本腰を入れてほしい」(山田委員)→「予算は変わらないが、規模が大きくなる中で会計面での対応が難しくなり、(無償の)ボランティアに依存する形になってきている。厳しい中でも企業協賛や出展者を増やしながら費用確保もしていきたい」(まち魅力創造担当)

◆地域団体の現状を懸念する声

「地域振興会(町会)に対する『任意団体』という位置づけは不安定。このままでいいのか」(矢田委員)→「この問題については改めて議論しよう」(武智議長)「地活協は区長の認定団体であり、地域振興会はその中核組織であると考えている」(協働まちづくり支援課長)

「以前は補助金という形で地域振興会に金が入っていたが、橋下市長になってから入ってこなくなった。それを補おうと他の地域では広報紙配布を引き受けている。しかし配布者に金が

入るだけで組織へは入らないので応募していない」「(上田委員)→「配布はプロポーザル(提案)による随意契約での業務委託なので、委託料は地域で自由に使える。まちづくりを活かすなど地域に合った活用を」(総合政策担当課長)

「ミニコミュニティ協会の職員は(指定管理者制度)による定期入れのため(不安定な立場)であり、身分保障もなく、活動の積み上げもできない。

心配している」(矢田委員)→「ミニコミュニティ協会は私が関わっているが、五年間には(指定管理者として)大丈夫。バチッと行へばずだ」(武智議長)「区民センターの指定管理者としての同協会の任期は五年間だ」(協働まちづくり支援課長)

◆ 区政協議のありかたへの注文など

「資料を見せられてすぐに意見を求められても難しい。後口にもメールなどで期限を決めて募る方法もあるのでは」(高橋委員)→「将来に引コンと運営方針については二月の区政会議で議論をお願いしたいと思っているので、それに合わせて二月中旬くらいまでにファックスなどで意見を寄せて頂ければありがたい」(区長)

「(市政改革で)区長権限が強まっているが、

←意見を述べる委員①と市議員②



全て区長判断で進められない。そのため区政会議がある。が、説明はかりでは役割が果たせない。二時間でこれだけやるのはどうか。今日は

運営方針だけに絞っても良かった」(藤田市議)

「資料の中で、子育てしやすいと答えた世代

の割合が二年度の六割から一五年度の四〇割へ下がっているところがあるが、なぜか」(藤田市議)

→「区民センターのアンケートでは理由を訊いていないので確かには分からないが、二二

年度は公募センター四百人、一五年度は基本的に無作為抽出センター千人によるアンケートだったのでそういう数字になったと考えており、それをもって子育て環境が悪くなったとは考えられない」(総合政策担当課長)「次回から二二

ターに理由も訊いていきたい」(副区長)

「活発な議論に、勉強させてもらった。子育て世代の増加や天保山地域の活性化は大きな課題。矢田委員が出された問題(地域振興会やミニコミュニティ協会の現状への懸念も大事だ。(市議として)支援していきたい」(山本市議)

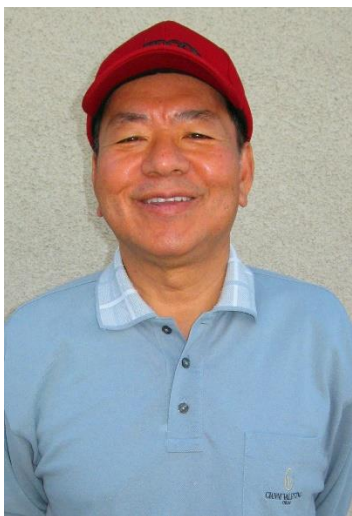
◆ 「議長の姿勢に懸念」と傍聴者

終了後、傍聴者の一人は「いつもながら区役所の入念な準備と委員の熱心な参加に区民として感謝したく思いました。膨大な資料については批判もありましたが、簡素化などの工夫は求められるものの、まずは資料を読み込み、そこから要点をつかんで議論に臨むのが区政協議の姿ではないでしょうか。その上で気になったのは、ミニコミュニティ協会などへの委員からの当然の懸念に対して議長が「(自分がトップなので)心配ないから議論を抑えていいですよ。内容が的外れであるだけでなく、議長権限の逸脱でもあるように思いました。以前(昨年一月)にも強い運営が問題になりましたが、今後のこともあり、民主的な議論の場として善処を求めべきだと思います」と話していました。

叫びたい！

ここにまことし

小西 正敏さん（六四歳、田中）



学校給食は食育 丁寧な検証こそ

「大阪市立中学校の学校給食では三割弱の生徒が食べ残している」。こんなショッキングな記事が毎日新聞（二月十三日付）に載っていました。市教委への取材で分かったところの数々、全国の小中学校平均（一五年度）ハ・九割の

約四倍、残飯となった食料費は年五億円、食料費全体の約一五割との推計です。

この大阪市立中学校の学校給食は、橋下前市長が二〇一二年九月に「デリバリー方式（宅配弁当方式）」を採用して始まりました。当初は家庭弁当との選択制、一四年度からは一年生を対象に同方式での全量給食に踏み切りました。が、当時から「冷たい」「味がない」などの声が多く寄せられ、市教委は、少しでも暖かく、冷めてもおいしいおかずの提供など様々な改善策を講じてきました。しかし今回の調査により残食率が高お高いことが明らかになったのです。そしてこれを受けて市が昨年からの試験的に四校で「自校調理方式」や「親子方式」（近隣小学校で調理して運ぶ）を実施し、吉村新市長も「一九年度までに自校調理方式が親子方式に改める」との意向を示しているとは、周知の事実です。

◆完全給食の公約も、実現は？

そこで読者の皆さんに訴えたいのは、給食とは単なる子供への食事提供ではなく、食を通じて教育つまり「食育」であるということです。その立場から私は、大阪市が「デリバリー方式の

中学校給食を始めた当時から、この欄を通じて、①食育の観点から完全給食（自校で調理した給食の提供）でなければ意味がない②学校給食に「デリバリー方式」はなじまず、冷たいおかずや定量的な主食（ごはん）で残食が出るのは目に見えている③完全給食の場合でも、少子化による給食中止校の増加や食の多様化の中、家庭弁当との選択制が好ましいーと主張してきました。

この点からすれば今回の新市長の公約は一歩前進と見えます。が、現実問題として、自校調理にする親子方式にする相当の予算を要することから、今の財政状況で実現が困難なこととは誰の目にも明らかであり、性急で人気取り的な「ダブルン」と言われても仕方ありません。また学校給食がその時々市長の考えで「転転転」しているのかという問題も指摘されています。

それよりも、今やるべきはまず、五年間の中学校給食は子供のためになったのか、何が問題だったのかの検証であり、また、学校給食とはそもそも何か、今の財政状況で何が可能なのかといった基本的な問題についての丁寧な議論であるべきです。ぜひぜひおねがいいたします。

あさやけ

「港区」から「宇宙」へ。その意外かつ必然の繋がりと一緒に手繰って参りましょう▼「区画整理記念事業の検討」フーキングが進展しているという「トップ」で報じました。が、それが理想的な形で「ールを迎えるとは思っていません。むしろ中途半端な形にしか辿り着けないと予想されます。十数年に亘ってこの問題を追ってきた筆者には、次に示すような事の流れがよく見えるからです▼そもそもこの記念事業は、低地で焼け野原だった区域の九割を全面「高上げ」して水害に強い街並みをつつた「港地区復興土地区画整理事業」(一九四八〜九)の歴史を後世に伝える残すための施設を造るという、正に「区民による区民のための事業」として九一年に検討が始まったのです。が、その当初から大阪市の事業(都市整備局が所管、用地は市が所有、資金は市財政調整基金に「プール」に組み込まれたため、以後、市の事情に左右されること)になります。区民が「早よ具体化を」と何度も声を

上げた本紙も何度も特集したにも関わらず、この問題を地権者が話さつ「港地区土地区画整理協議会」メンバーの死去や転出にも補充をしない(当初「十一名」最終十三名)など、区民論議を抑えつ、「景気」「住宅事情」などを理由に具体化を延ばし、結果的に弁天町駅前の事業用地は「十年以上も放置されたのです」ところが先の橋下市長が「市政改革」を唱えるや、その一環である「老人福祉センター」や子ども子育て「プラザ」の削減「老朽化」などを理由に市区民の活動拠点を減らして「コスト減を図る」と共に、跡地を売ってカジノ誘致など「財界奉仕」に注ぐのが狙いが記念事業に取り込まれ、更には築港の大坂みなと中央病院の弁天町駅前への移転要望をも組み込んで急進展を見せたのです。そして、その慌ただしい具体化の中で肝心の記念施設の敷地は(病院が割り込んだため)当初の二〇八五㎡から一五〇〇㎡へと縮められた上、その中へ老人福祉センターや子ども子育て「プラザ」などの機能も「世代間交流の名で詰め込まれ、結果として、現在検討中の「基本構想案」では、核となるべき区画整理の歴史展示は「図書館に併

設」という中途半端な位置づけをされるに至ったのです。要するに、この間の経過にも構想案にも、区民の声ではなく市の都合が最も反映されたのでした▼というとは、この記念事業の変質は詰まる所、大阪市の事情の結果なのか。事はそう単純ではありません。なぜなら、政令市といえども地方自治体は国の出先機関に過ぎず、国の方向性を離れては存在できないからです。ではその国の方向性とは何か。それこそ戦後歴代政権が進めてきた国鉄・郵政などあらゆる公的分野の米田財界への開放であり、これに先陣切つて応じたのが、何でも民営化の橋下市政だったのです。つまり国の財界奉仕の政治が市政を、次いで区政を縛つたのです▼ということとは、この記念事業の変質は詰まる所、国政の結果なのか。残念ながら、事はそう単純ではありません。なぜなら、各国は世界の「一部」であり、その巨大な流れを離れては存在できないからです。ではその世界の流れとは何か。それこそ二度の大戦で独り勝ちした米国が「自由・民主の旗手」の顔で、実際には軍事力の脅しで進めてきた世界市場の開放、別名「グローバル化」であ

り、これに唯々諸々と日本を組み込ませてきたのが戦後歴代政権であり、現在の安倍政権なのです。つまり世界の流れが国政を、次いで市政を、次いで区政を縛ったのでした▼ということ、この記念事業の発端は詰まる所、世界の流れの結果なのか。残念ながら、またも事はそう単純ではありません。なぜなら世界は古今無数の人間が形作った協働作品であり、その人間の本質あるいは土台を離れて理解することはできないからです。ではその人間の本質また土台とは何か。それこそ有史以来、知恵と心ある人々がきえに考え続けたにも関わらず、今なお統一見解が出ない人類最大の問題なのです。これは何を意味するのでしょうか。結局の所、人類は自分たちの土台が何であるかも竟らないまま、その時々、権力者の書寫眞に沿って上へ上へと建物を積み上げてきたということではないでしょうか。そして、その時々、建設の在り様が人々の幸福に繋がったかという点、例外なく「否」と答えざるを得ないのも、また歴史の実態です。つまり、土台不明という人間存在の不安定こそが、世界を、日本を、市を、区を縛ったと結論

付けるのは、短絡に過ぎぬでしょうか▼筆者が折に触れて紐解く聖書には「地の人の道はその人に属していない…自分の歩みを導くべき道を歩んでいるその人に属しているのではないなど人間の不完全さや愚かさを指摘する言葉と同時、「神」自身が私達の造りをよく「存じであり、私達が塵である事を覚えておられる」など人間の本質は神の被造物であることを示唆する言葉、更には私達は自分達の支配者として人間より神に従わねばならない」など神の導きこそ従うべきことを勧める文言が散りばめられています。もちろん古今内外の他の思想書・宗教書にも多くの箴言が見られます▼そしてそれらを読むにつけ、①これまで無数の人々が正しいと信じてやってきたことの総和(結果)としての今の社会が人類を幸福にできていないことは明らかだ②そんな不完全な人間がこれから先も同じ歩みを続けて幸福へ向かうことができるのか③もしできないなら人は何に頼るべきか④もし神による創造が真実なら被造物である人間が頼るべきは神の他にあるのか⑤その神は目の前の子である人類を幸福へ導く意志を持つや否や

「な」と書きとせられるのです▼さて、戦後の港区民が総力を投じ、水害に強い街並みを整備した「港地区復興土地区画整理事業」。その苦闘の歴史を後世に伝えるべく検討が進められている「区画整理記念事業」。それが区の発展を願う区民の心に沿った形で実現することを期待してやみませんが、その進行状況から、理想とは遠い結末も予想される時、それをもたらした市政、国政、グローバルズム、更には人類史や神の創造といった所へ思いを深めざるを得ませんでした。たかが「港区」、やむ「港区」。突き詰めれば図らずも「宇宙」の根本問題へと行き着いた訳です▼とついで、以上、区画整理記念事業の「検討ワーキング」が大詰めを迎えていることに鑑み、筆者なりに思考をワーキング(活動させた回路を恥ずかしながら公開した次第ですが、願わくば読者の皆さまも、自らの体験や社会問題を素材に、徹底的な思考のワーキングに挑まれることをお勧めします)要らぬお節介との声も聞こえてきそうですが。日々深まる世の混沌からは書きとられない、明快・安穩・深敵の境地に達するかも知れません。

弁天町駅前に整備される「(仮称)区画整理記念・交流会館」(二〇二二年度完成予定)の基本構想案(前号トップ記事で「検討ワーキング」の進展状況を掲載)について、港区役所が一月二十七日を期限にパブリックコメント(意見公募)を実施しました。これに応募した本紙・飯田代表の意見を次に紹介します。

歴史展示と記念事業の核に！

(仮称)交流会館基本構想案への意見

戦後の焼け野原から水害に強い港区の土呂を造った「港地区復興土地区画整理事業」の足跡を記念施設として残そうという構想について、区民の間で検討が進んでいることを大変嬉しく思っています。この間の検討ワーキングなどを「港新聞」記者として取材する中で、また読者からの声を受けて、「ぜひこんな施設に」という思いがありますので、それを以下にまとめてみました。

まず、十一月時点で示された「基本構想案」

の中で、その「機能」として、第一に「まちづくりの歩みを伝える拠点」が、そのための「手法」として「資料の収集・展示・発信」が、それを実現する「しかけ」として「スペースの設置」「さまざまな資料の収集と保管」が、それぞれ掲げられていることは、この記念事業の趣旨を踏まえたものとして、大いに賛同できるものであり、ぜひこの点の具体化・充実化についてこの検討が進むことを心から願っています。その上でさらに「このあつてほしい」と希望するのは、表題にも掲げた「歴史展示」と記念事業の核に！という一点です。

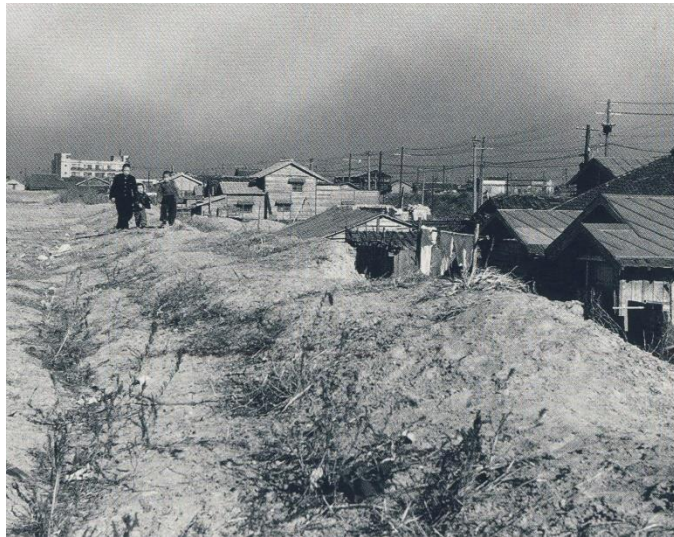
いつまでもなく、港区の土地区画整理事業は、戦後復興と防災のため、四十数年の歳月をかけ、文字通り区民と行政が心と力を合わせて成し遂げた、世界にも誇れる大事業です。しかし、その実際を知る区民が今、どれほど少ないでしょう。若年層や転入世帯はもちろんなので、年配層にも、この事業があった事実さえ知らない人が大勢います。そういう人たちも含めてこれからの港区のまちづくりを進めていくためには、何よりも、この地の歴史を知り、先人の苦闘に思い

を寄せ、港区という土地に関心と誇りと愛着を持つてもらうことが求められるのではないのでしょうか。またそのためにこそ、この記念事業は企てられたのではないのでしょうか。そのようなこの記念事業本来の位置づけから、これまでの区民論議を振り返った時、今一つ物足りなく思うのは、この事業の中心であるべき「歴史展示」への言及の度合いです。二十数年間に亘って区民論議の中心を担った「区画整理協議会」では「音楽ホール」や「マンション」が主な関心事となつて検討が進められた上、結局は実現に至らず、現在進行中の「検討ワーキング」では「交流」や「学び」の具体化に大きな関心とエネルギーが割かれています。これらは決して記念事業にそぐわないものではなく、むしろ今後のまちづくりに必要な内容でさえありますが、この記念事業の趣旨を考えた時には、あくまで結果として、あるいは副産物として位置づけられるべき内容であり、それらに論議の重点が割かれることには、大いに違和感があります。ですから、今後のワーキングなどで残り少ない検討機会においては、この記念事業の趣旨を最もわきま

えている田端区長はじめ区役所職員が、公職として当然のリーダーシップを発揮し、「歴史展示」の具体化及び充実化についてこのへ論議をリードされることを強く望むものです。

その上で、現時点で私がこの「歴史展示」といつ点で具体的に希望するのは、次の点です。すなわち、いまフーキングで「最小スペースに」「図書館の一角に」などの表現で検討されているような付属的なものではなく、他の自治体のように、例えば「港区歴史館」などの名称で独立した施設にするべきだということです。参事までに、私がこれまでに訪れた大阪市や他の自治体の歴史館は大変見応えがあり、ジオラマや動画、また折に触れての企画展開催など、市民が自らの地に興味と誇りと愛着を持てる様々な仕掛けがなされてきましたが、戦災や区画整理などの港区の歴史も、そうした工夫を施して紹介するに足る重みを十分に持っていることを確信します。また区画整理の経過と成果を再度整理する際にはもちろん、その否定的側面ともされる諸問題（自動車社会のために水運の便を犠牲にした運河の埋め立て、防災のために自然との

←戦後の港区民が生活の不便に耐えながら水害に強い街の土台を築いた区画整理事業の地上げ風景（昭和二十年後半～三十年代前半）



連続性や景観を軽視した尻無川・安治川の護岸構築、土地の交換・分合や建物移転の過程で生じた利害調整の不公平なども検証して、その功罪両面を明らかにし、今後のまちづくりへの教訓とすることも重要と思われる、そうした点での継続した調査・研究も可能な施設とするべき

ではないかと考えます。

そして、そのための方途として、区民に喜ばれてきた老人福祉センターと子ども・子育てプラザを廃止せずに存続させ、その一施設の機能の一体化としての「世代間交流」機能を記念会館に持たせることをやめ、ホールと図書館とエントランス以外の全入スペースを歴史展示に充てることを希望します。というのは、大阪みなと中央病院の移転で当初の二〇八五㎡から二五〇〇㎡に縮小された敷地の上に「交流」や「学び」など様々な役割を詰め込むのは無理があり、どの機能も中途半端となり、何より、この記念事業の趣旨がばやけると思っています。ただ、この案には、現構想案の大幅な変更が伴うこともあり、実現が難しいかもしれませんので、その場合には次善の策として、せめて、記念会館のワンフロア全面を使って独立した展示施設とすることを希望します。

以上、自らが働き暮らす港区を少しでも良い街に、という立場からの愚見、一検討のほどよろしくお願い申し上げます。

二〇一六年二月二十五日

飯田 浩一

感謝や目標 率直に

新成人にぶっつけインタビュー



→「港区成人の日 記念のつどい」が終わったあと出身中学校ことに集まり、再会を喜ぶ新成人たち＝一月十一日、弁天町オーク広場で

「港区成人の日 記念のつどい」（一頁）記事に参加した新成人に、終了後、ぶっつけでインタビューを試みました。どの感想・意見からも、困難の多い世の中でも周囲への感謝を忘れず、自分の個性や得意分野を生かして社会に貢献したいとの意欲が感じられました。

× × × × ×

貿易の仕事につき、家族を幸せに

市岡東中学校出身 北本 聖凱さん
きたもと せいがい

〈写真左が北本さん、右は友人〉



「記念のつどい」では中学時代のスライドが懐かしく、同級生のあいさつも良かったです。成

人になって、特に選挙に参加することで大人としての責任を果たしていきたいと思っています。これまでの人生で一番苦しかったのは高校時代のアメフトの練習。とにかく根性重視の練習で、三年間、本当にしんどかったです。その結果、チームが大阪一になった時は最高に嬉しかったです。この経験があったから、それ以後の苦しいことにも「あれだけきつい練習をやり抜いたんやから」と耐え抜くことができました。厳しく指導して頂いた笠松監督には心から感謝しています。今は大学で国際問題、特に戦争と政治の関係について勉強していますが、今の世界で心配なのは、やはりテロや紛争が絶えないこと。北朝鮮や中国やロシアなど、戦争につながる**ひたね**が至る所に見られ、いつ世界戦争に発展してもおかしくない状態。とにかく平和で安全な世の中になってほしいと心から願っています。逆に楽しみなのは、日本の経済。僕たちが卒業する頃にはもっと景気が良くなり、就職状況もさらに改善されているかもしれません。安倍さんにはぜひ長く首相を続けて、日本を良くしてほしいと期待しています。また、僕たちが生ま

れ育ったこの港区は本当に楽しくていい街。出て行く人が多いのが気になりますが、もっと活性化して、残る人が増えてくれたらと願っています。卒業したら、できれば貿易関係の仕事に就き、結婚して、家族の幸せのために一生懸命働きたい。特に我が子に自分の人生を誇れるような生き方ができたらと思っています」

（波除生まれ、波除小→市岡東中→大阪芸高→大阪経済大学 回生、波除在住）

調理の仕事を始め、子育ても

港南中学校出身 胎中 優奈さん



「いついでは、懐かしいスライドを見ながら港南中の皆で『父母唄』を歌えたのが嬉しかった」

たです。両親に感謝の気持ちを伝える、とても好きな曲です。成人になったということは大人として第一歩を踏み出したということ。何事にも責任をもって行動していきたいと気を引き締めています。両親が調理関係の仕事をしていてそれに憧れ、今では有名な蕎麦屋の調理場に入っています。一品物、お鍋などオーダーが多く、お上品な店でお客様からのお声も多く、忙しい毎日を送っています。これまでの人生で一番嬉しかったのは、結婚して子供が生まれた時。今、三歳と二歳と、どちらも女の子ですが、

一人親になって自分一人で育てなくてはならなくなった時が一番苦しかったです。でも、私は四人兄妹の末子で、兄たちが子育ての教訓を色々話してくれるのが参考になり、本当に助かっています。今の日本で心配なのは少子化。このまま減っていくと、この国は一体どうなるのかと不安になります。楽しみなのは、そんな中でも携帯電話やスマホなど、どんどん新しい物が生まれていること。この先もきつと面白い物が現われると期待しています。そして何より、テロや紛争など争いごとのない平和な世界になっ

てほしいと心から願っています。そんな中で自分がこれからどう生きていくかですが、まずは今の調理の仕事をもっと深め、子育てもしっかりやり、家族として自立すること。できれば子供はあと二人ほしいですね。そして、そんな子供たちから二人の人間として尊敬され、自分が親から教わったことを我が子に教え、見本になれるような生き方ができればと思っています」

（三先生まれ、三先生小→港南中→大正高→飲食店勤務、一女の母、三先生在住）

数学教師になり子供支援したい

市岡東中学校出身 倉留 謙介さん



「記念のいついの中では、中学時代のスライ

(井天生まれ、井天小→市岡中→上高→市
ーメン店とスイングスクール勤務、井天在住)

多様性受け入れる社会のぞむ

築港中学校出身 俵 克典さん
たわら かつのり



「記念のついででは、中学時代の懐かしいス
ライドが見られたのと、平山先生の言葉を聴け
たのがうれしかったです。自分は一月十四日生
まれで、まだ二十歳になっていないこともあつ
て、特に大人になったという実感はありません。
これまでの人生で一番苦しかったのは大学受験。
とにかく耐え抜くしかないという頑張りでした。一
番うれしかったのは大学に合格したこと。そし
て今、大学では特別支援の在り方なについて

学んでいます。障がいのある子どもとの関わ
り方を研究するサークル(約四十人の代表を務
めている関係で、上に立つ人の気持ちや、多く
の人たちの声をまとめる苦労が分かるなど、と
てもいい経験をさせてもらっており、今が人生
で一番充実している時かなとも思っています。

今の社会で心配なのは、エンブレムや新国立競
技場などの問題で色々とトラブルのあった東京
五輪。テロの可能性もあり、無事成功させられ
るかどうかが、とても気になります。逆に楽しみ
なのは、特別支援教育など障がい者施策の前進。
さらに普及が進むことが期待されます。そうし
て障がい者やLGBT(性的少数者)などへの理
解がさらに深まり、宗教の違いも含めた多様性
を皆が受け入れる社会になると、平たく言え
ば、誰もが平和に仲良く暮らせる世の中になる
ことを心から願っています。卒業したら小学校
の教員が特別支援学校の教員になろうと思つて
います。そして、自分には正直に、他人には誠
実に、つまり相手のことも認めながら自分の意
思もしっかり伝える、そんな生き方ができたら
と思つています」

(築港生まれ、築港小→築港中→寝屋川高→
大阪教育大学教育学科一回生、堺市在住)

平和な世で旅の楽しさを伝えたい

港中学校出身 森口 桃子さん
もりぐち ももこ



「記念のついでではムービー(中学時代のス
ライド上映)が良かったです。特に松本真智子先
生のビデオメッセージに感動しました。成人に
なって、これまでは自分の好きなように自由に
生きてきたので、これからは周りのことも考え
て行動できる人間、いやなことも我慢できる
人間になりたいと思っています。今、専門学校
で英語を学んで二年になりますが、その中で、
これまでの人生で一番楽しいことも苦しいこと

も経験しました。楽しかったのは、留学先のニューヨークで年を越せたこと。苦しかったのは、同じ留学中のホームステイ先での英語の勉強です。十カ月間、英語つけの本当に厳しい毎日でしたが、その中で、しんどくても目標を持って努力を続けることの大切さを学ぶことができました。今の世界で心配なのはテロの横行。楽しみなのは東京オリンピック。海外からたくさんの人たちがやって来るので、自分の英語を生かせる機会もあるかと期待しています。そして、とにかく戦争のない、平和で安全な世の中になつてほしいと心から願っています。学校を出たら旅行会社に勤め、自分が味わった旅の楽しさをほかの人たちにも味わってほしいと思っています。そして、最初にも言ったように、周りのことも考えながら、これからも自分の思うように自由に生き、できれば結婚して家庭を持ち、子供を二人くらい生んで、家族で世界中を旅行できたらいいなと思っています」

(池島生まれ、池島小→港中→大正高→英語専門「学校」年生、池島在住)

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

●ワークみなと「東北食品市」 東日本震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧一・六・三、☎六五七二・七五二一)。

●繁栄ワイワイ市場 商店街に個性的な露店がズバリ。毎月第二十曜の十～十八時、繁栄商店街(南市面三丁目)で、沖縄料理・和菓子・占い・似顔絵・ワークシヨップ・唐揚げ・パスタ・地ビール・洋食・和食・惣菜・マッサージ・フリマ・牛乳屋等々。三月五日は一周年記念で①みなトクモン認定表彰式(時間未定)②風船シャワー(時間未定)③ちりめんじゃこ目方でドン! (時間未定、優勝者に豪華景品参加賞ちりめんじゃこ)

←過去のワイワイ市場から。上はアクセサリづくり、下は針金細工&組み紐



参加費二百円④牛乳早飲み大会(時間未定、優勝者に一カ月間牛乳無料宅配 参加費百円)⑥腕すもつ教室(十五時～、十八以下にはコッ伝授無料)。主催は繁栄商店街振興組。問合せはひとん館ひらのや(☎六五八二・〇三二八)へ。

●ムチ打ち(首・腰 無料相談会) 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。一月二十八日(日) 十～十八時に行政書士のむら事務所(築港二七・一六〇八)で。一人約一時間。事前予約制 電話かEメールで。「どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。E

メール info@jikkou110-nomura.com、TEL 六五七六・六〇七八、FAX 六五七六・六〇七九。

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西

省大同市の黄土高原で一九九三年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費一

万二千円③会報を購読する④年間 千円⑤カンパする⑥税制上の優遇措置あり⑦絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑧八枚組二百円⑨ビデオ『よみがえる森』を購入する⑩三十分五千円⑪換金できる物を送る⑫古切手・書き損じはがき・外国「イン・商品券など⑬ボランティアになる⑭会報発送など⑮黄土高原スタディツアーに参加する⑯黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。次回は四月九日(土)～十五日(金)の六泊七日。費用は一般十九万七千円(学生割引五万五千円)。定員二十名程度。申込×三月二日⑰DVD『黄色い大地に広がる緑の草の根環境協力二十年』を観る⑱緑化協力二十周年を

↑ GEN④とクリニック⑤の活動イメージ



記念して制作。約三十分。無料⑩関連イベントに参加する⑪GEN自然と親しむ会 大泉緑地での植物観察と樹木地図づくり⑫二月二十七日(土)十～十五時頃。前中久行・GEN代表が案内。参加費五百円。定員約二十名。雨天中止。申込×二月二十三日▽いずれも詳細・申込などはGEN事務所(市岡一・四一四・五階、☎六五七六・六二八二、FAX六五七六・六二八二)へ。●日本クリニック協会 入院生活を送る子どもたちを定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、笑顔を育む臨床道化師「クリニック」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。二〇〇五年から港区を拠点に全国で活動(二〇一五年八月から大阪市北区に事務所)▽支援

の方法⑫寄付する⑬会員(活動会員・賛助会員)になる⑭マンスリー(ひと月単位のサポーターになる⑮関連イベントに参加する⑯他▽いずれも詳細や申込は同協会事務局(大阪市北区末広町三・一・一 天しもビル3B、☎四七九一・八七一六、FAX四七九一・八七四八)へ。

●石綿(アスベスト)パンフ 肺がん、中皮腫などの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死が「アスベスト(石綿)によるものだ」と認められたい色々な給付を受けることができる。このパンフレットは、そんな人たちや家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気と分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合どこへ問い合わせたらよいかなどを厚生労働省などがまとめたもの。タイトルは『その病気、その症状は石綿(アスベスト)が原因かもしれません』。「ノンパクトで分かりやすい(区内六十代男性)と好評。港区で暮らすか働いている人なら港区役所(市岡一・一五二五二階の港区保健福祉センターのチャリシスタード)に設置してあるものを無料でもらえる。

みなとサロ

十八歳選挙権とメディア人事の先に…

池島・勝部 泰臣 八十二歳

誤解を恐れずに言えば、私はこれからの日本に、今のままでは期待するものは何もない。八十三に今年はなる一平凡なる老人の戯言を聞いて欲しい。

十八歳以上まで投票権を下げた意図は何だろう。文科省からどんな通達が各県各市の教委にあつたかは知らない。が、どこの教委も口を揃えていいが分らない、悩ましい問題だと口を揃えている。投票権を新たに与えられた十八歳以上の二百四十万人は、社会人として仕事についている人もおれば高校生も含まれている筈である。投票では大人として扱いつつ一人ひとりの中身は未熟であると判断しているのなら、何でこの法案が通つたのか？「マークがつく。穿った見方をすれば、来る参院選で過半数を獲り、憲法改正から国防軍の創設、それに続く

徴兵制への布石じゃないのか。この危惧が実現されないことを願つ。

時の権力とメディアの関係も何やら怪しい。

やさしく何でも解説する池上彰氏が、かつて新聞の『首相日々』欄にふれて、誰と会いどこに行ったかを常に把握していたと言つた。今年に入つて間もなく、安倍総理自ら、何と読売新聞に赴いて夕食を共にしている。メディアは本来、時の権力の監視役であり、暴走のブレーキ役の筈である。テレビの報道番組のキャスターの人事異動に、明らかに不自然な動きを感じるのは私だけではないだろう。時の権力に批判的な番組が標的になつていくと考えるのは余りに穿った見方であらうか。

紙数に限りがあるのでもこの辺で筆を留めるが、参院選の夏まで、私達には注視せねばならぬことが多々ある。

喜ばつて「フリーキング」の進展

（市国元町・七十年代元公務員）
一月間のトップ記事「まちづくりの歩み伝える拠点に！ 区画整理記念事業『検討フリーキン

グ』進む」を読んで、同事業の趣旨に沿った方向へ議論が一步進んだ様子が分かり、喜ばしく思いました。

特にグループ論議の中で、Ｃグループが「区画整理の歴史を展示するスペースは必須」との意見を出されたことは、そこまではつきりした意見がこれまでになかった（責紙を読んだ限りでは）だけに、本当に良かったと思いました。加えて「その場合、常に内容を更新できるようにしたい」との意見が出されたことも注目されます。というのは、いくら立派な展示でも、固定されたままでは鑑賞者が尻すばみになるのは目に見えているからです。やはり、どこの美術館や博物館でもやっているように、一定期間ごとに重点を変えながら特別展を催すなどして、絶えず新しい内容が見られるようにするべきでしょう。誰が出されたのか、紙面からは分かりませんが、先を見通した素晴らしい提案だと思いました。

ほかにも、グループ論議に区役所職員が加わつたことや、区長が三たびこの事業のポイント（区画整理を記念する）を強調されたことを

積極面として挙げられていますが、そういったことを含わせても、今回のワーキングが今後に希望の持てる進展を見せたことがつかえました。このあとパブリックコメント（意見公募）や四回目のワーキングや区政会議を経て、最終的に基本構想案として決定されるというのですが、私ども夫婦も及ばずながら、この問題に対する考えを、パブリックコメントなどを通じて区役所に伝えようかと話合っています。

区画整理の全容を知りたい

（磯路・陸地 照子）

戦後の焼け野原から水害に強い港区の土呂を造った「港地区復興土地区画整理事業」（一九四八・一九四九）の足跡を記念施設として残すという話（一月三二頁）。私は港新聞でそのことを知ったのですが、正直言って、これまであまりピンと来ず、その必要性もあり感じていませんでした。でも一月三三の表紙の写真（地下げ風景）を見て驚きました。丸い大きな物は何だろうと思ったら「マンホール」と書いてありました。それで初めて、区画整理というのは大変な大

「辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙」



がかりな事業だったんだと納得がきました。記念施設は「まちづくりの歩みを伝える拠点」になり、区画整理の歴史を紹介するスペースが設けられるというのですが、そこには大きな写真を含めると展示するなど、大変だった区

画整理の歴史がよく理解できるようにしてほしいです。文字で読む以上に写真はインパクトがありますから。「区画整理事業」の全容を詳しく知る口を今から楽しみにしています。

大槻さん思はせた「あさやけ」追悼文

（三光・ライター）

職業柄、いつも「あさやけ」から読みますが、

一月三三頁では地域活動家であった故・大槻一成さんの生前を思はせる入魂の追悼文に読み入りました。面識のない方ですが、その最後

のお仕事であったと思われる「港戦争展」の充実した展示の様子が迫真の筆致で振り返られ、それだけ読んでも、この方の平和への溢れる熱意がうかがえました。そして何より、冒頭と結びに据えられた吉田松陰の辞世の句は、幕末を憂えた松陰と同じく、現代社会や地域の変革を心から願った大槻さんの崇高な生涯に一層の光を当てた役割を果たし、見事としかいいようのない展開でした。それに促された訳でもありませんが、地域に尽くされた大槻さんの「富福を、私も遅ればせながらお祈りさせて頂戴しました。

消費税への疑問ついた小西提言

（港晴・六十代 商店主）

政治や社会問題に関心があるので「叫んでいいよー」をいつも楽しみにしています（風田屋を見て、そのあとネットを読んでいま）。一月分の「消費税増税するなら社会保障に限定を」という小西正敏さんの提言（九頁）は、増税でこの当面の問題を通じて、消費税そのものへの疑問を突き付けているのが鋭いと思いました。

一九八八年に初めて消費税法が成立した際、自民党以外（民社・公明・社会・共産）はみな反対していたのではないのでしょうか。その理由に多少の差はあっても、今回小西さんが突かれてくるように、その使い道に、そもそももの疑念異論があったからです。つまり、国民生活や福祉のために使われるのではなく、もっぱら大企業や軍事やアメリカのための浪費の穴埋めに使われる危険性を、多かれ少なかれ、感じていたからです。それが今では、増税に反対する党はあっても、消費税そのものを廃止せよと叫ぶのは党はなくなりました。これも時の流れといふのは

それまでですが、政党の理念や主張とは一体何ぞやと考えたとき、本当に情けなく感じてしまいます。今回の小西さんの提言は、そんな政治の在り方への庶民からの根本的な不信感を、やや控えめながらも、代表しているように感じました。最後に示されている「社会保障への使途を確約し、検証せよ」という具体的な提議は、恐らく政府には通じないでしょうが、それをやらないのを見て、国民はさらに政治不信を強め、最終的には根本的な政治変革へと進む可能性をはらんでいる、という点で、意義があるのではないかと思えました。

港の労働者の頑張りに「元氣もいっ

（市岡・四十代 会社員）

「粘り強く闘おう」・労働者と地域で団結もちいき（一月三十一頁）に元氣をもらいました。春闘の賃上げを安倍さんが代わりにやってくれているとはいっても、本当に労働者のためを思っているのではなく、表向きの景氣をよくくして結局は大企業の利益になるよう計算しているように思いますが……）のを見ても分かるよ

うに、日本全体では存在感のない労働運動ですが、港区では力強く活動されていることが分かります。色々な団体の方が「右への流れは労組の力が弱いから」「組合の枠を越えて」「屈せず」に闘おうなどと訴えられている中で、特に「憲法十一一条を根拠に」「戦時法廃棄へ全力で」と呼びかけられた港合同の玉置さんのあいさつは、安保法の成立などでちよっと不安になっていたこの労働者や国民を「問題はこれからだ」と勇気づけてくれるのだと思いました。

それから、「不当解雇許さない」・労組結成の金属労働者が抗議（二月三十四頁）にも目が留まりました。孤軍奮闘で、しかも契約労働者という弱い立場にあるsさんが、この厳しい状況を、支援を受けながら、どう切り開かれるのか、注目していったら傍観者的で無責任になります。が、応援しています。

森さん「戦争体験」ありがとー！

（八幡屋・四十代 一児の母）

よく利用するオリオン書房の「主人の戦争体験について」平和のため戦争体験語り継い

う」を愛読してきました。一月三(三十八頁)で終わり、ちょっと寂しくなりましたが、本当に大切なことを色々と書きえさせられ、心から感謝しています。十月三までは良きにつけ悪いにつけ教育というものの影響力を、十一月までは戦争が終わってからの方がむしろ大変だったことを、そして二月までは「国のため自分を犠牲にする」というのは本当に悪い考え方だったのがどづかを、それぞれ考ええさせられました。

特に「国のために自分を犠牲にする」というのは、「これまでのマスコミや周囲の影響もあって、戦争に奉仕する悪い考え方だ」とばかり思っていました。でも、森さんが最後に振り返っておられるを読むと、自分たちの国を救ったり発展させたりするために自分の力や命をえ使うというのは、決して間違ったことではなく、それを戦争に結び付ける(戦争に利用する)のがいけないのだという気が、これまでのモヤモヤが、何かすっきり晴れたように感じました。

また、やはり森さんが振り返っておられるように、ほかに、一つとした自分たちの考え方を間違ったこととされて複雑な思いを抱かせられ

「辻悦子(つじえつこ)さん(市岡元町)からの絵手紙



た戦争体験者がおられると思いますが、そんな人たちにも、「愛国心」というものに対するこうしたまともな考え方を伝えてあげなければいけないとも思いました。

一月三では、戦後の一家団欒(だんらん)の写真も掲載され、何か、「苦労が報われたような安心感」というか、温かいものを感じました。本当に長い間、「苦労をまですた」……

卒業化壇(くわつかりだん)へついに気持ちなぞ

(築港・三十代 一児の母)
一月三では「花で描いた思い出 田中小六年生が卒業化壇へついに二十四頁の気持ちや和

みました。植えた花は、やがてはなくなってしまうでしょうが、地域の人たちのサポートで自分たちでデザインした花を実際に植えるという体験は、楽しく美しい思い出としていつまでも心に残ると思います。ある意味では卒業証書以上の値打ちがあるのではないのでしょうか。また、そんな素敵なフリンをたてられた「八幡屋公園活性化会検討会議」という会もすごいと思いました。私の子供が築港小学校を卒業する時にも、こんな素敵な取り組みができるように願っています。

港区の高齢者の活動に期待

(此花区・八十代 自営業)
ネット読者です。一月三では「老人クラブ大会」の二十頁、「カラオケ大会」の二十二頁、「教室合同発表会」(四十頁)と高齢者関連の記事が多いのが目立ちました。高齢者が増えている割に、老人クラブに加入したり老人福祉センターを利用する高齢者はわずかと一般新聞に載っていました。そんな中で地道に活発に活動されている港区の老人クラブや老人福祉センタ

ーに感心した次第です。此花区の老人クラブもけつこう活発に活動しているようですが（私は事情で加入しておりませんが、貴紙の紙面を見る限りでは、大阪市でもトップクラスの活発さではないかと思われます。女性会長といつことが影響しているのかも知れませんが…。それはともかく、老人クラブ大会も、カラオケ大会も、教室合同発表会も、本当に生き生き、はつらつと活動されている様子が写真や詳細な記事からうかがえます。特に発表会での民謡から社交ダンスまでの豊富な出し物には、会場である港区老人福祉センターの雰囲気の温かさ、居心地の良さも目（め）で感じられ、ぜひこれからもうこうした温かな催しを続けられるようお願いしました。

奉仕活動に女性の粘り強さを見た

（磯路・六十代パート女性）

毎月冊子を届けて頂き、ありがとうございます。す。一月間では「奉仕」とジャンル分けされた二つの記事、「本格派のおもちゃ贈る」ハピネスが子ども・子育て支援法（こども・子育て支援法）と「猫が子猫を共生を」『街ね』『資金集めのつづき』

（二十九頁）に感じるものがありました。どちらも目立たない地味な活動ですが、一方は幼い子供たちのために、一方は野良猫のために（また野良猫を不快に思ったり同情したりしている人たちのために、グループで力を合わせ、無報酬で、息長く活動されています。同性だからという訳ではありませんが、やはり女性ならではの粘り強さを感じてなりません（藤かはりさんの盲導犬チャリテイにも同じことを感じています）。私もかつて経験していますが、活動の中では色々なトラブルもあります。あつて当然です。でもそれを乗り越えてこそ一定の成果も得られるのだと思います。ぜひ二つのグループには、そうした問題を一つ一つ解決しながら、女性の粘り強さを發揮して、一歩一歩前進されることを期待しています。ちょっと年意気なようで、申し訳ありませんが…。

北朝鮮と米国、どちらが脅威か

（港の加勢大周）

新年早々、北朝鮮が核実験をし、お決まりのよつこに日米韓が「スラッシュ」に「脅威だ」「経

済制裁だ」と喚き立て、新聞・TV・雑誌などのマスコミもこれに同調しているが、その姿勢や行動の矛先（さき）を、北よりも遥かに多くの核を持つアメリカに向けたらどうなんだ、と言いたくなる。新聞などを見ても分かるように、北が保有しているであろう核は十発足らず、それに対して米国は七十発以上。さらに言えば、長崎、広島に核を投下し、ベトナム、イラク、アフガンなどに無数の爆弾をばらまき、無差別大量殺戮（りく）・破壊を繰り返してきたのはこのどいつだ！ どちらが本当に脅威かは言わずまでもない。米日政府が「北の核の脅威」を執拗（しつ）に叫び立てて諸人に宣伝するのは、戦争法や米軍基地の辺野古（へのか）移設、国民監視法などを正当化し、それらに対する未だ根強く熱い反対機運に冷水を浴びせ、米国主導の戦争に日本を全面的に巻き込む体制を作りたいからではないかと思われる。「アメリカは必ず日本を守る」という空想を抱いている者は、最近の米軍の戦略構想を調べてみよ。いついつ時に米軍は日本を守らねば、それどころかむしろ日本を盾（たて）として、敵と戦う計画を立てている事が分かるはずだ。

低学年も出られるで！

ソフト45大会 波市子ども会が初々



→低学年の子供たちも試合で活躍する喜びを味

わえた「第八回 港区子ども会ソフトボール4

5大会」十一月二十四日、市岡グラウンドで

「選手の学年合計が四十五まで」というユニ

ークな運営規則を掲げた児童スポーツ行事「港

区子ども会ソフトボール45大会」が一月十

四日、市岡グラウンドで催されました。

同大会は七年前、関係者が「大会はどうして

も六年生が中心になってしまつ「低学年にも活

躍の場を」と冒頭の規則を考案して発足。以後、

実行委の主催で続けられてきました。

八回目の今大会には区内外の子ども会から十

二チームが出場。開会式では高橋忠晃大会委員

長が挨拶。二コートでの予選、上位四チームに



→初優勝を喜ぶ波市子ども会チーム①と、準優

勝にも爽やかな八幡屋子ども会チーム②

←決勝トーナメントで3位に入った港晴子ども

会チーム①と九条北子ども会チーム②



よる決勝トーナメントが行なわれました。今冬

一番の寒気の中、高学年投手の速球に必死でバ

ットを合わせる女子選手など、学年を越えてソ

フトを楽しむ姿が微笑ましく、保護者らが「ど

んまいどんまい」といって声援を送っていました。

夕方に及ぶ熱戦の末、準決勝では波市子ども

会 枚田監督、山崎寛大主将が九条北子ども会

(栗田洋監督、栗田優河主将)に四対〇で、八幡

屋子ども会(大峰一彦監督、河本理達主将)が港

晴子ども会(松田監督、松田晴也主将)に五対四

で勝利。決勝では波市が八幡屋を五対二で降し、

初の頂点に立ちました。

障害とばす笑顔！

歌や踊り「あいらぶ祭り」大賑わい



→聴覚などに障害のある人たちが手話劇など多彩な出し物を楽しんだ「第六回あいらぶ祭り」
 11月16日、港晴の「あいらぶ工房」で

聴覚障害に加えて様々な障害を併せ持つ重度の重複聴覚障害者が仕事や生活や活動を通じて社会参加を実現していくための通所施設あいらぶ工房（港晴二丁目）が、地域や支援者との交流を目的に催す「あいらぶ祭り」。今年も一月十八日に開かれ、多彩な出し物に同工房の利用者や職員、ボランティアや関連団体、地域の人々の笑顔が溢れました。二〇〇七年の同工房開設以来、ほぼ隔年で開催され、六回目。

◆「力合わせ盛り上げよう！」自治会長

祭りは午前十一時、二階のメイン会場でスタート。司会はいらぶフレンズ会（同工房利用者の自治会）役員の平野智子さん。オープニングでは、発達障害児などのサポートを行なう子ども心理教育研究所「ひかり塾」代表のもりもり（本名：盛永政和）さんがマジックを披露。トリビリーに裂かれ、グチャグチャに握り潰された新聞紙が「エイ！」の掛け声で元に戻る手品には「おー」と驚きの声があがりました。

続く開会式では、あいらぶフレンズ会の山崎遼会長が手話と力強い身振りで「マジックはすこかったですね。今日は力合わせて盛り上げ

「開会式で「力合わせ盛り上げよう」と手話で呼びかけるあいらぶフレンズ会・山崎遼会長（上）と、「活動の幅を広げましよう」と手話で訴える港区聴覚障害者協会・内畑輝子地域会長（下）」



ていきましよう！」と呼びかけ。港区聴覚障害者協会（港区の聴覚障害者の集まり）の内畑輝子地域会長は「昨日、大阪市議会を傍聴して手話言語条例が成立したのを見ました。ともに喜びましよう。障害者にはまだまだ厳しい社会ですが、少しでも良くなるために、これを機に私たちの活動の幅を広げ、仕事も頑張りたい」と手話で訴えました。

◆手話「ソト」や手話「コース」

午後には同会場でも舞台発表が行なわれ、手話「ソト」など多彩な出し物が次々と登場、会場と一体の大きな盛り上がりを見せました。

「オープニングを不思議なマジックで飾ったも
りもりさん」と、南中ソーランの元気な振
りで盛り上げた海の子学園池島寮の子ども達



このうち冒頭の『南中ソーラン』では、池
島の児童養護施設「海の子学園 池島寮」の子ど
もたち八人が「用意、始め！」の掛け声も勇ま
しく、勇壮なソーラン節に乗せて躍動感あふれ
る振りを披露、最後のポーズが決まると「良か
ったよ」の声があがりました。

また『あいらぶ冬の陣2016』と題したゲ
ームには利用者やボランティア十数人が出場
「お血つみゲーム」などを競いました。中でも
難しい「コップけん玉」(紙コップに紐を付け、
その先に結んだボールをコップに入れる)に成
功した出場者には盛大な拍手が起り、できな

かった人も含めて全員に賞品が贈られました。

また『あいらぶでヤングな仲間たち』と題し
た手話コント&手話歌では、手話エンターテ
ィメント発信団oioi(おいおい)「聞こえる人と聞こえない
人の心の心のバリアを壊すため、主に関西で
パフォーマンスライブなどを展開するグルー
プのメンバー五人が「ナンパ」や「手話体操」
を題材に愉快なコントを披露、最後は懐かしい
『ヤングマン』(西城秀樹・歌)に乗せた超元
気な踊りで会場を盛り上げ、嫌なことがあつて
も落ち込まず、アイラブとヤングを大切に、一
緒に頑張りましょー」と呼びかけました。



→ゲームに挑戦するあいらぶ工房の利用者たち。
上は実力伯仲だった「お血つみゲーム」、下は
難しかった「コップけん玉」

「手話コント&手話劇で盛り上げたoioi」と、
「世界に一つだけの花」の手話コーラス&
ダンスを披露するあいらぶフレンズ会役員



最後の「世界に一つだけの花」と題した手話
コーラス&ダンスには、あいらぶフレンズ会の
役員五人が登場。一人一人が「私のオンリーワ
ン」として「めりえ」「ラインポップ&三宅島太
鼓」「パンづくり」「陶芸」「ダンス」などと紙に書
いて示し、「皆さんのオンリーワンは何ですか」
と問いかけた上で、S.M.A.P.の同曲に合わせて
表情も明るく、軽やかなダンスを披露。会場か
らのアンコールには揃いの法被で再登場、会場
も一体の踊りで舞台発表の最後を飾りました。

◆昼休みも飲食などで大にぎわい
一方、昼休みには一階でボランティアによる

飲食模擬店が一斉に開かれ、「引換券」を手にした参加者が、カレーライス・ハッシュドポテト・からあげ・フランクフルト・アフォガード・飲み物などを受け取っては大食堂で飲食しました。中庭ではフランクフルトやハッシュドポテトづくり、食堂ではカレーやからあげづくり、同工房のパン・焼き菓子販売、同工房と同じ社会福祉法人が運営する障害者支援施設「なかまの里」が作ったパウンドケーキなどの販売が同時進行。三階には無料で利用できるゲームコーナーも設置され、会場全体が大変な賑わいを呈しました。

◆「この盛り上げを明日へ」と理事長



→「今日の盛り上げりを明日の力に」と呼びかける大阪聴覚障害者福祉会・森本成毅理事長
⑤と、「一緒に頑張りましょう」と手話で訴えるあいらぶ家族会・藤本真澄会長⑥

プログラムの最後には「お楽しみ抽選会」がメイン会場で開催され、「黒毛和牛すき焼き肉」「ケトル」「ゆびもじクッキー」などの当選者が明らかに。大きな歓声と拍手が起りました。

午後三時前からの閉会式には参加者全員がメイン会場に集り、同工房を運営する社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会の森本成毅理事長が「あいらぶ工房は、地域の皆様や法人後援会やボランティアの皆様など多くの方々を支えられ、利用者と職員が力合わせて活動することによって順調に発展しています。支援に感謝し、互いの頑張り（た）を称え合い、元気に明るく過ごした今日の盛り上げりを、明日からのエネルギーにしましょう」と呼びかけました。

またあいらぶ家族会の藤本真澄会長は「いつも利用者がお世話になって感謝しています。今日は充分楽しめました。これからも一緒に頑張りましょう」と手話で訴えました。

また、同工房の平田幸也施設長は「昨年は大阪都構想や安保法制など政治への関心が高まった一年でした。平和・安全・人権が大切にされ、誰もが安心して暮らせる大阪に、日本になるこ

→「皆の力でもっといい社会に」と手話で訴えるあいらぶ工房・平田幸也施設長⑦と、全プログラムの司会を手話で務め切ったあいらぶフレンズ会・平野智之さん⑧



とを願っています。今日は二年に一回のお祭りということで、約二百人の参加を得て、楽しく交流を深めることができました。昨日は市議会でも、誰もが手話を覚えてみんながコミュニケーションをとれる社会にしようという『手話言語条例』が成立しました。これを機会に、私たちの活動をさらに盛り上げ、もっといい社会にしていきたいと思います。」と手話で呼びかけました。

◆「大家族の雲（くも）が胸打つ」

舞台発表に来場者が両手をあげて応える光景からは、厳しい現実の中で心を寄せ合って生きる障害者のたくましさや一体感が、障害のある

人と障害のない人が昼休みに一緒に飲食しながら「コミュニケーションを交わし合う光景からはまるで大家族のような温かさが、また昼食時間をゆつたり二時間近くもつたプログラムからは、障害ある人たちへの主催者の気配りが、「欠場者の」代わりに出場しませんか」との呼びかけに希望者が殺到する光景からは、好奇心を失わない純粋な心模様が、それぞれ伝わってきて胸を打ちました。

◆「手話もつと覚えてたい」と男性利用者

終了後、あいさぶ工房の職員を通して、祭りに参加した利用者の感想を訊きました。このうち男性の平野さんは次のように話していました。

「私はあいさぶフレンズ会(利用者の自治会の一員として)司会を務めさせて頂きました！このお祭りに向けて一月七日からみんなで手話歌の練習をしました。ところどころ使い慣れない手話があり、少し戸惑いました。次からはあまり使わない手話も覚えていきたいと思います。普段はパン班で働いていますが、たまに軽作業の応援もしています」

◆「友だちと一緒に楽しみたい」と女性利用者

←舞台発表やあいさつに応える来場者。一大家族のような一体感と温かさが感じられた



また女性の伊吹さん(二十一歳、府内在住)は次のように話していました。

「私もあいさぶフレンズ会の一員として準備や運営に携わりました。祭りでは手話歌を歌い、昼食をいただきました。プログラムの中では手品がすこかったと感じています。私は聴覚障害を持つっており、あいさぶ工房に月曜日から金曜日まで通っています。このところ少し体調を崩して休んでいましたが、仕事は毎日したいです。今は友だちと一緒に楽しみたい、いろいろなことは特にありません」

◆重複障害者の社会参加を支援

あいさぶ工房は「聴覚障害のほかに知的障害

や精神障害、肢体障害や視覚障害などを二重三重に併せ持つ重複の障害者が、仕事や生活や色々な活動を通じて、人としての豊かな暮らしをつくり出し、持っている力を発揮して働き、社会参加を実現していくことを目的に二〇〇七年四月に開設。社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会が運営。施設の一部でベーカリーカフェ営業(平日十時～十八時)。軽作業を一緒にしたり食事や作業を支援したりできるボランティア募集中。港晴一・七・四、☎四三九五・七五八八、FAX四三九五・七五八九(担当は津村さん、安田さん)。

住まいの防犯レベルを高めよう

- ① ワンドア・ツーロックは常識
- ② ピッキングに強いカギに交換
- ③ 窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎0120-70-5569

(ア) 港カギ防犯センター

安全・安心を
ご提供します

港区港晴1-4-8
(港晴小学校並び)

港カギ防犯センター

☆大阪府鋭前技術者防犯協会会員
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

書で地域ふれあい

三先の天満宮で恒例書き初め



→筆字で新年のスタートを切り、家族連れなど地域の人たちがふれあった「書き初め・書道展」二月二日、三先の天満宮で

「書を通じて地域のふれあいを」と二月二日

てんまんぐう 三先の天満宮(村岡康生宮司)で「書き初め・書道展」が催され、三先・池島住民を中心に多くの

人々が参加しました。天満宮奉賛会(島尾健次会長)が呼びかける正月恒例の行事。十一回目。

◆次々と力作が誕生

朝十時すぎ、社殿の大広間には三先小・池島小の六年生・四年生児童が授業で書いた「元旦」「新年」「希望」「竹苗」などの筆字、合わせて二百点超が貼り出され、爽やかな墨の匂いが立ち込める中、親子連れなどが次々と来場、座卓に用意された筆をとり、半紙に向かいました。

参加者の目的は「年初に気分を新たに」「一年の抱負を筆で」「冬休みの宿題で」など様々。中でも子供たちは、父母や地域の人たちから「姿勢を正して」「筆を立てて」などの助言を受けながら練習を重ね、次々と力作を完成。同宮は午後一時までの予定を二時すぎまで延長して希望者を受け入れ、参加は百人を超えました。

◆「家族の健康願つ」と谷脇さん

参加者のうち谷脇大翔くん(三先小四年)は母親に見守られながら、冬休みの宿題「美しい空」に挑戦。十数枚も練習を重ねて骨太の男らしい文字を完成。「習字はあまり好きではありません。筆の持ち方、力の入れ方、墨のつけ具合が難しいです」と頭をかきながらも、今年の目標を「ソフトボールでレギュラーになること」と力強く宣言。母・知佳さんは「宿題のためもあって初めて来ましたが、年初に筆を持つて気持ち

「母親の見守る中で骨太の男らしい文字に仕上げていく谷脇大翔くん」と、お母さんの指導で『美しい空』を練習する小四女児



ちが引き締まりました。今年一年(夫と小学一年の次女を含めて)家族四人が健康で過ごせるよう願っています」と話していました。

◆「穏やかな一年に」と川口さん

同じく家族と一緒に宿題に挑戦していたのは

川口和翁くん三先小四年。数枚の練習を経て骨格のしっかりした『美しい空』を完成。「書道は力の入れ方が難しいので苦手」と言いながらも「今年の目標は楽しく過すこと。去年十一月に入団した南市岡ボーイスで試合で勝つことも目標です」ときっぱり。姉の胡鳳さん(同六年)は十数枚の練習を経て、美しく整った『伝統を守る』を完成。「書道は撥ねたりするところが難しいです」と控えめながらも「春には中学生になるので、バスケットボール部に入って頑張りたいです」と口元を引き締めていました。母・あつ子さんは「家族で毎年来ています。私は子供の名前などを書きました。去年はテロや紛争が絶えなかったので、今年は穏やかな一年に願っています」と柔和な表情で話していました。

◆「勉強頑張る」と小四女児

また、お参りに来たついでに参加したという三先在住の女性は「今年一年、家族四人が健康で過ごせるようお願いしました。この書き初めは、ふだん家庭でできないことを経験できる、とてもいい催し。筆を持ち、半紙に向かうと懐かしい気持ちになります。『美しい空』を十数

←基本に忠実な筆づかいが共通していた川口さん家族(上)と、美しい姿勢でさらさらと『謙虚』などを書き続ける伊藤さん・正木さん姉妹(下)



枚練習して仕上げた三先小四年の長女は「習字は撥ねを作るのが難しくて苦手です。今年は勉強を頑張ろうと思います」。その横で同小一年の次女はひらかなを一心に書き続けていました。

◆「人々が謙虚に」と正木さん

また、美しい姿勢と手慣れた筆づかいで『謙虚』『平安』などを端正な書体でさらさらと書き続けていたのは正木民子さん(七七)＝西区在住。「二年の計は元日にあり。この書き初めには必ず来ています。筆は、学校を卒業してからは年に一度持っただけですが、やはり気持ちが引き締まります。今日は、世の中が平和であってほ

しい、人々の気持ちが謙虚であってほしいと願って書きました」。その横で姉の伊藤ヨシ子さん(八一)＝池島在住は、妹の助言を受けながら『謙虚』を何枚も練習していました。

◆「親子ふれあう場」と奉賛会・門脇さん

一方、これら参加者の世話役として、筆や半紙の手配、荷物の管理などに忙しく動いていた同宮奉賛会の門脇あきさん＝大正区在住は「今日はお天気も良くて大勢の参加があり、嬉しく思っています。三分の一はほぼ初めての方でしょうか。毎年来ている方は年々上達されているのが分かります。親が子供に教えたりする姿に、この行事が親子触れ合いの場にもなっているのを感じます」と話していました。

◆神則奉納で、どんど焼きに

なお、こうして書き上げられた書は一般参拝者の「良縁」「家内安全」などと合わせて午後三時半ごろ神前に奉納。同宮ではこれらをその後モ社殿で展示した上で、一月十五日、書の上達などを祈願して、どんど焼き(松飾り・注連縄などを焼き、その火で餅を焼いて食べ、健康と幸福を祈る正月行事)に行きました。

気迫の演武で魅了

新年の三社神社で武道奉納



→ 気迫の演武で参拝者を魅了した「三社神社奉納演武会」 〓 一月九日（写真は霞神道流・剣術を披露する徐珠美さん 〓 手前左 〓）

気迫に満ちる掛け声と動きに境内の空気が張りつめました。新年恒例の三社神社奉納演武会が一月九日（土）午後、三社神社（磯路二丁目）で催されました。波除在住の佐藤政子さん（歌手・藤かほりさん）が師範を務める「神道夢想流杖道 井太道場」（小山悟館長の主催で十回目。同道場は今年で設立三十年。港区の繁栄、道場の発展などを願って道場生ら約二十人が様々な種目の武道を奉納しました。

◆ 剣・鎖鎌・短杖・居合・十手など次々と

演武に先立ち本殿でお祓いを受けた道場生らは、清々しい白や紺の道着姿で登場し、本殿に一礼。神道夢想流杖道・制定・基本形の集団演武を皮切りに、霞神道流剣術、一心流鎖鎌術、内田流短杖術、英信流居合術、一角流十手術、全日本剣道連盟杖道などを次々と披露しました。そのうち冷えた空気のなか、礼に始まり礼に終わる一連の所作、流麗かつ俊敏な動き、「エイ」「オウ」「トア」「ハア」などの力強い掛け声、相手から瞬時にも外さぬ鋭い視線、男性の迫力と女性の切れ、鎖鎌や十手による時代劇さながらの立ち合い、真剣が空気を裂く緊迫感。見物や

「神道夢想流杖道・奥伝を披露する佐藤政子師範」と、同・制定を披露する増田陽乃里さん



参拝に訪れた人たちは司会者の簡潔な説明にも耳を傾けながら、「見事やなあ」「気が引き締まるなあ」などと盛んに拍手を送っていました。

◆ 「古人の心に学びたい」と道場生

終了後、道場生に訊きました。仕太刀（技を仕掛ける側）として神道夢想流杖道・制定から「霞」「太刀落」「雷打」、同・古流から「傘の下」「細道」を、また打太刀（技を受ける側）として同・制定から「水月」「引提」「斜面」「左貫」「物見」を、それぞれ演じた今村昭彦さん（五十八尾市在住）は淡路島の海上保安庁に勤務する公務員。三年前、「色々なスポーツや武道の中でも体の左右を均等に使うので健康に良い」「棒

← 一心流鎖鎌術を披露する広瀬和子さん①と神道夢想流杖道制定を披露する今村昭彦さん②



の両端が攻守に使え、シンプルで効率的」などの理由から同道場の門を叩きました。

三回目の出場ですが、大勢の方に見られるのでやはり緊張しました。杖道は四百年の歴史があり、稽古を通じて創始者の心に少しでも近づけたらと思っています。難しいのは体や動きのバランス、それに相手との呼吸ですね。杖道を始めてから、仕事や生活の中で何かやる時に気合が入るようになりました。これまでに制定の基本形は一応マスターできたので、これからはその基本をさらに深く身に着けると共に、できれば(応用形の)古流などへ進んでいきたいと思っています。当面の目標は、大会に出場して

三段になることです」と話していました。

◆「人思いやる心で精進」と佐藤師範

また、奉納を終えた佐藤師範は「今年も地元の神社で奉納させて頂き、光栄に思っています。道場では各種武道もとり入れ、全国大会出場などの目標を持ちながら稽古に励んできましたが、お陰様で三十周年を迎えることができました。これからも弁太道場の名に誇りを持ち、人を傷つけず、人をお願いやる心を持って精進して参りたいと思っています」と話していました。

◆ 四百年の伝統、理想のエアロビクス

佐藤師範によると、杖道とは四百年の伝統を



→ 英信流居合術を披露する(奥から)山口敏彦さん、谷川良二さん①と、神道夢想流・制定を披露する小柳舞実さん②

← 神道夢想流・制定を披露する富永基子さん①と、一角流十手術を披露する黒川徳子さん②



持つ神道夢想流杖術を母体として発展・普及した武道で、杖と呼ばれる長さ約一・二メートルの丸木の棒を自在に操ることで剣・槍・薙刀などの長所を採り入れた多彩な展開が可能。その技は二百を超え、全てマフスターするには十五二十年を要するとされています。また「杖一本で身を守る護身術」左右を均等に使つ理想的な日本古来のエアロビクス「気の効用による心身統一法」としても近年人気を高めています。

なお、同道場は毎週水・土曜の十八時半～二十時半に市岡元町三・二・一六(三和住建内)で稽古。会員は現在三十数人。問い合わせは六五八二・一五四四 小山館長まで。

他人事でない原発事故

チエルノブイリ描いた 貝原浩さん原画展



→チエルノブイリ原発事故の怖さを告発すると共に、現地で逞しく生きる人々を描いた故・貝原浩さんの作品から『夏の村人と馬』(部分)

原発事故は他人事^{ひとごと}ではない。チエルノブイリなどを描いてきた画家の故・貝原浩さん^{かいはろし}の原画展が一旦下旬に朝潮橋駅前の画廊「ガレリア・リバリア」で開かれ、反響を呼びました。展示会は貝原浩チエルノブイリスケッチ『風しもの村』原画展」と題し、同氏の業績を広めるため各地で作品展を催すなどの活動が続ける「関西美術家平和会議」が主催。

会場には、同氏がチエルノブイリ原発事故の影響下にある人々を描いた連作など千数点を展示。訪れた人々は、事故の影響を実感させる絵のリアルさや迫力に驚いたり、「彼女達の太りっぷりの見事さにはウムと息を呑んでしまつ。あの太い足には、きつと大地の精気を吸い上げる力があるのだと思つ」などと現地の人々の逞しさ^{たくま}を画中に書き添えた文章に読み入ったりしながら、同氏の業績を偲^{しの}んでいました。

貝原さんは四十七年倉敷市生まれ。東京芸大卒。ペン・筆・鉛筆などを使い、幾つもの国や地域を旅して風景や人物を描き続けました。雑誌イラスト、書籍装丁などでも活躍。著書も多数。

九年三月、子供たちの白血病や甲状腺異^{いへんじょう}

「展示作品から『夏の村人と馬』①と『春の子どもたちとスカーフ』②(いずれも部分)



常が急増していたチエルノブイリ原発事故の「風しも地域へ医療支援グループが入った際に同行、「医師は病院で検査や治療を行なつ。絵描きには何ができるか」と自問し、「この地に暮らす人々を描いて多くの人に見てもらつこと」で、原発事故が他人事ではないと感じてもらおう」と決意。大判和紙縦公五升×横一八升(十四枚の連作『風しもの村』などを次々と発表しました。〇五年、癌のため逝去。

「ガレリア・リバリア」の主宰者であり、平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた八幡屋在住の画家川島恵美子^{えみこ}さんは、主催団体である「関西美術家平和会議」の会員。

ライブガイド

● **八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん** きりたかつじ

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。『周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに』と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガーゴイル」のアルバム『解識』好評発売中▽四月九日(土)十八時半から京都KBSホール(京都市上京区烏丸上長者町KBS京都放送会館三階 地下鉄烏丸線「丸太町駅」②八分、「今出川駅」⑥八分)で、四月二十日(金)十九時からフェスティバルホール(北区中之島二丁目八、地下鉄「肥後橋駅」④直結、⑧八分)で、所属バンド「ザ・クロマヨンのジャングル」に出演予定。⑧六三・四四〇〇サウンドクリエイター。



→ 桐田勝治さん⑤とペドロ上村さん⑦

● **二先のフォーク歌手、ペドロ上村さん** かみむら 温か

なオリジナルフォーク▽毎月第一・三木曜「干時サ・セラー」(中央区西心斎橋) ⑧八二二・六四三七▽毎月第一 火曜「干時半ローシー」(中央区西心斎橋) ⑧八二二・三九九九▽毎月第二火曜「干時かつおの遊び場」(中央区宗右衛門町四) ⑧〇九〇・五八八一・七〇一五。

● **市岡元町の音楽ユニット「花☆キャラ」** 生活

に根ざした明るく前向きな分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパス』②「あなたらしくあなたらしく」好評▽Eメール kaohanakayara@yahoo.co.jp HPは「花☆キャラ」で検索。



→ 演奏する花☆キャラのニッシィ⑧とカオリン

演劇ガイド

● **石炭倉庫『お笑いカンツォーネ』** 関西 期

会(オヘア公演など)を行なう団体(合格最年長記録(六十一歳)保持者で「隣の人間国宝さん」前途洋々たる老人)として活躍中のバリトン歌手・バリトン亭千秋さんが『オー・ソレ・ミオ』『帰れソレントへ』『サンタルチア』などのカンツォーネを落語で案内。ピアノは欧州コンクールで一、二位の実績を誇る新庄桃子さん。三月十三日(日)十三時と十五時。前売 千円、当日 一千二百円。詳細問合せ・申込は会場の石炭倉庫(波除ハ・五・一ハ JR 弁天町から国道四二号を北進 安治川堤防突当り右すぐ。⑧六五八一・〇六八四、FAX 六五八一・二六七〇)へ。



→ 石炭倉庫『お笑いカンツォーネ』に出演するバリトン亭千秋さん⑤と新庄桃子さん⑦

怖い哀しい面白い

あんがいおまる一座「雨月物語 朗読劇



→好評だった『雨月物語』。右は「吉備津の釜」を朗読するヨッシー原本さんと八上祐子さん、左は「貧福論」を朗読するあんがいおまるさん

上田秋成の怪異な世界を入魂の朗読で再現。波除のフリースペース「石炭倉庫」を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいおまる一座が一月三十、三十一日、朗読劇「怪談を食す」シリーズの第四回『雨月物語』を上演し、好評を博しました。あんがいおまる座長が演出。

◆ 現実と非現実の境を描く

上演されたのは、江戸後期の国学者・歌人・読本作者であった上田秋成が三十五歳の時に物した代表作『雨月物語』から全九篇。そのどれもが中国の白話(話し言葉)小説を元に、現実と非現実の境を描いた伝奇また怪談であると同時に、日本の史実を踏まえた歴史譚であり、さらには秋成独自の仏教的倫理観・人間観が込められた知的小説ともなっています。

◆ 争いや復讐の渦中へ

このうち『白筆』はヨッシー原本さんが朗読。讃岐(今の香川県)白筆にある崇徳院(保元)の乱を起して讃岐に流された天皇の墓に詣でた西行(平安末期〜鎌倉初期の歌僧)の前に、院の怨霊が出現する。乱の正否を主張する院

と批判する西行。深夜の山中で緊迫の議論が交わされる。院は仇敵への怨念と復讐を語り、魔道に堕ちた浅ましい姿を現わす。が、争いの虚しさで解脱を説いた西行の歌によつてその顔は穏やかとなり、やがて消える。このあと世の中は平家滅亡など院の言葉通りに進んだ。朗読では、挑みかかる院と受けて立つ西行の声調や表情の使い分けが鮮やかで、その中から、権力争いや復讐の空虚さやそれに執着する人間の弱さ、また作者の考える「真に価値ある晩節」とは何かが浮かび上がってくるようでした。

◆ 夫婦別離を強いた戦乱

『浅茅が宿』はあんがいおまるさんが朗読。一戦乱の世、下総真間(今の千葉・北房)に住む勝四郎は一旗挙げようと妻・宮木を残して京へ商いに入る。まもなく戦乱が起つて真間は戦場となり、帰郷しようとした勝四郎も途中で山賊に襲われた上、病に罹る。七年後に帰郷した勝四郎は、やつれた宮木と再会するが、翌朝それが亡霊であったことを知る。節操を守りつつ死んだ妻の哀れな最期を古きから聴いた勝四郎は、悔恨に号泣するばかりだった。

朗読では、恨みの中にも律儀で健気な妻として己の功名心と非情を悔いてやめぬ、それだけの心情表現が絶妙で、その中から、夫婦別離の辛さと共に、それを強いる戦乱など人の世の罪深さが伝わってきました。

◆ 信義は命に勝るが

『菊花の約』は八上祐子さんが朗読。

一播磨加古(今の加古川市)の左門は、旅の途中で病に倒れた出雲の宗右衛門を救い、二人は意気投合して義兄弟の契りを結ぶ。初夏となり秋の再会を約して宗右衛門は出雲へ発つ。約束の九月九日、夜も更けてから宗右衛門は影のように現れた。その不審な様子を問われて明かすには、旧主を討った新城主・尼子の命で、従兄弟に幽閉され、やむなく自刃して幽魂となり、千里を越えて来たのだ。そう告げて消えた宗右衛門を悼み、左門は出雲に赴く。そして従兄弟の不信を責めて斬殺し、逃げる。しかし尼子は左門の信義を称えて後を追わせなかった。朗読では、全編を貫く不気味な幽霊感の描出が見事で、その中から、死を賭してまで守られた友情の重さが伝わり、信義は命

に勝る」といつ日本的な価値観や美意識をどう見るかが問われているように思われました。

◆ 芸術がもたらす夢幻の世界

『夢應の鯉魚』はヨシシー原本さんが朗読。

上三井寺(今の天津市の寺)の僧・興義は鯉の絵の名手。病で息絶えるが三日目に蘇生。琵琶湖で海神から鯉に仕えろといわれ、心のままに泳ぎ回ったが、釣り上げられ、檀家の屋敷で膾として切られる瞬間に目が覚めた、という奇異な体験を弟子たちに語った。檀家ではその顛末が事実通りであることを不思議がり、残っていた膾を湖に捨てた。癒えた興義はその後、天寿を全うしたが、その最後の絵を湖に放すと鯉が紙から離れて泳ぎ出したという。

朗読では、怪談というより童話的な世界を丁寧にボよぶ広げている軽みある語り口が絶品。

その中から、芸術を極めようとして得た至高の境地への作者の憧憬や、あらゆる殺生を忌む仏教の因果思想への傾倒が感じられました。

◆ 情念と不条理と救済

この他、旅の親子が豊田泰次の怨霊に出会う『仏法僧』、浮気された妻が夫を祟り殺す

『吉備津の釜』、蛇の化身の女につきまとわれた男が僧侶に救われる『蛇性の姪』、稚虎に迷い鬼と化した僧侶を旅の僧が解脱させる『青頭巾』、金を貴ぶ武士と黄金の精が金銭問答をする『貧福論』が演じられ、そのいずれにも、情念に憑かれた者たちと彼を取り巻く世の不条理、そして救済が主題に据えられています。

◆ 原作の重有感、朗読の格調

全体を通じて何より、怖い、怪しい、哀しい、面白い、教訓的という「一粒で五度おいしい」原作の重有感が際立ち、そうした「好球」を逃さぬ一座の「選球眼」が窺えました。また和歌を含む原文を現代風に調整した脚本からは「古典を万人に」といつ劇団としての使命感が、発声・抑揚間などの基本を押さえつつ個性を垣間見せた演者の朗読技量からはNHK「日曜名作座」に迫る格調が感じられました。さらに、幽明の境を思わせる白いオブリジェや仄暗い照明、原典の劇画風挿絵を駆使した映像や、山鳴りを彷彿させる音響(いずれも八上和裕さん)が、また簡素ながらも要所に挟んだ小芝居は、観る者を一段と物語世界へ惹き込んでくれました。

みなと

人生

劇

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木

健一さんがつづる『正地ドラマ』。第八弾は、田中在住の九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (十五)

(前号まで) デイサービスに通う久美子は回想録を残すことにした。――大正十年、六人兄弟姉妹の長女として浪速区に生まれた久美子は博打に目がない父に苦労させられながら奉公の連続で家族を助けた。引越した港区でも子守奉公。十二歳で家族と合流。母と宮む幸運橋の海産物店で一家を支えた。大戦下の昭和十七年、船大工の次男・大東正義と結婚も夫は召集され南万へ。二十年三、六月の大阪空襲を家族は生き延びたが焼け出され、港区は壊滅。義父母と別れ、疎開先の愛媛でも空襲に追われた――

● 終戦、弟が帰還

昭和二十(一九四五)年八月十五日、日本は連合国に無条件降伏し、長かった戦争は終わった。久美子らは疎開先の愛媛県小池(母の里)で終戦を迎えた。

隣の家には母の次兄一家がやはり疎開でやって来て、暮らしていた。その長男(久美子より一つ上)は召集されて中国山東省へ派遣されたが、戦争が終わってもなかなか帰ってこなかった。父は宇和島の町へ出かけることが多く、時々久美子らの所へ帰ってくるくらいだった。

また小池で獲れた出汁雑魚などを大阪へ持って出ては、闇市で売ったりもしていた。そんな中、海軍通信兵だった弟の善道が戦地から帰還したのは、久美子一家の大きな喜びとなった。

● 夫が奇跡の帰還

しかし久美子の夫・正義は、昭和二十一年に入っても還って来なかった。昭和二十年の春を最後に手紙も途絶えた上、日本軍が各戦地で敗退を重ね、特に南方では悲惨だったことを終戦後いよいよいつかは知らされていたので、久美子はほとんど諦めていた。父も「南方へやられ

はったから、恐らくあかんや」と言っていた。

ところがその年の九月、夫は生きて還ってきたのだ。父が商売で大阪に出た時、近所の人から「正義さんが帰ってきたのは時の目印に、何か建てとかな」と言ってくれたことを受けて、久美子らの家(田中元町二丁目)の焼け跡に粗末なバラック小屋を建てていたのだが、それが実際に役立ったのだ。

復員船で東京の晴海埠頭に着き、そこから汽車で「汽車賃は「復員」といって無料で」た。大阪へ帰り着いた夫は、焼け跡にそのバラックを見つけ、近所の人から久美子らが無事で母の里にいることを伝え聞いて喜んだ。そうして何日かの間、やはり「復員」ということで支給された僅かの金をはたいて、闇市で食べないでいた。そこで偶然、同じ闇市で芋飴を売っていた久美子の父と再会したのだ。父は涙を流して喜び、「久美子らは無事で小池にいてるからさ、一緒に帰ろ」とその日のうちに夫を連れ帰った。

――父の横に一人の男の人が立っていた。骨と皮だけの体。半ズボンの兵隊服はぼろぼろ。

髪（かみ）の毛（け）が一本もなく（鉄兜（てつたう）をかぶり続けていたからか）、顔（かお）は髭（ひげ）だらけ。が、紛（まぎ）れもない夫（つま）の姿（すがた）だった。あまりの驚（おどろ）きで久美子（くみこ）は言葉（ことば）が出（で）なかつた。涙（なみだ）も出（で）なかつた。が、人間（にんげん）これ以上の喜（よろこ）びはないと思（おも）った。昭和（しやわ）二十一年九月。終（はつ）戦（せん）から既に一年以上が過（へ）ぎていた。

● よつやへ夫（つま）を尋（たず）ねるよつこ

夫（つま）は一週（しゅう）間（かん）ほど久美子（くみこ）の家族（かぞ）八（は）人（にん）（父（ちち）母（はは）美子（みこ）弟（にい）二人（にに）妹（いもうと）一人（ひとり）と過（へ）したあと、とりあえずはいったん義父（ぎふ）母（はは）のいる同（どう）県（けん）上（かみ）灘（なだ）へ行き、そこで船（ふね）の修理（しゆり）なごをして生計（せいけい）を立てることになった。義父（ぎふ）が既にそこで小（こ）さな造船所（ぞうせんじよ）を営（えい）んでいて、「お前（まへ）も手（て）伝（でん）つてくれ」と頼（たの）んできたからだった。

久美子（くみこ）は時々着替（か）えや食料（じきりょう）などを携（たづ）ね、汽車（きしや）で小池（こいけ）から片道（ひとみち）四時間（よっしじかん）もかかる上灘（かみなだ）の夫（つま）のもとへ通（とほ）つた。そのうち夫（つま）は「お前（まへ）もこつちへ来たらどうや。部屋（へや）もあるから」と言（い）つてくれ、久美子（くみこ）はよつやへ夫（つま）と一人（ひとり）で暮（く）らすことが出来るよつこになった。

● 戦地（せんち）での夫（つま）を戦友（せんゆう）が語る

そこにいる時（とき）、夫（つま）の戦友（せんゆう）たちが訪（ま）ねて来て、

戦地（せんち）でのいろんな思（おも）い出（で）を話（はな）してくれた。それ

によると、夫（つま）はスマトラ（スマトラ）でしよつちゆつ久美子（くみこ）のことを「可愛いんや」「可愛いんや」と嬉（うれ）しうに話（はな）していたぞうだ。また、中国（ちゆうごく）戦線（せんせん）ではまだ独身（どくしん）だったこともあり、「いつ死（し）んでもええ」と思（おも）っていたよつだが、スマトラでは敵襲（ていきゆう）にも怯（おそ）まず、「絶対（ぜったい）に生きて帰（かへ）るんや」と山（やま）の中（なかつ）を走り回（まわ）っていたぞうだ。また帰還（きえん）する時（とき）運良（うんりやう）く一（いっ）番（ばん）籠（こ）を引（ひ）いて最初（さいしょ）に引き揚（あ）げることになった夫（つま）を、戦友（せんゆう）たちが歌（うた）で送（おく）つてくれたぞうだ。その歌（うた）は夫（つま）のためにわざわざ戦友（せんゆう）たちが作（つく）つてくれたもので、その後（のち）も夫（つま）がよく歌（うた）つて聴（きか）せてくれたので、久美子（くみこ）は今（いま）も覚（おぼ）えている。

● 食料（じきりょう）ではまだ辛（から）い男（おとこ）が

しかしその頃はまだ食料事情（じきりょうじじやう）が悪（わる）く、食（く）へる（こ）こでは家（いへ）の中で辛（から）い思（おも）いもした。

義父（ぎふ）母（はは）宅（たく）でのある食（く）事（じ）時（とき）だった。義母（ぎはは）が先に箸（はし）を置（お）くので、久美子（くみこ）も仕方（しかた）なく「馳走（ちそう）様（さま）でした」と席（せき）を立（た）つた。ところが、そのあとで義母（ぎはは）は「さ、お茶漬（ちやづけ）け食（く）べよ」と再び茶碗（ちawan）を持（も）ち、おいしそつに食（く）べ始めたのだ。それを見て久美子（くみこ）は、「ああ、私も食（く）べたいなあ」と指（さ）をくね（く）ねるばかりだった。

また義父（ぎふ）が縁（えん）の下（した）にたくさん蓄（たくわ）えていた玄米（げんまい）や里芋（やいづみ）を見て、久美子（くみこ）は「あの里芋（やいづみ）、炊（た）いたらおいしいの」と思（おも）っていた。しかし義母（ぎはは）はそれらをあまり使（つか）わず、里芋（やいづみ）などは炊（た）いた菜（さい）葉（え）の間（ま）に少しづつ入（い）れるだけだった。朝（あ）の粥（かゆ）も薄（うす）く柔らか（やわらか）いものはかりで、久美子（くみこ）は「もっと硬（かた）いのが食（く）べたいなあ」と溜息（ためいき）をついていた。しかし妊娠（ていねん）して日（ひ）に日（ひ）にお腹（なか）の目（め）立（た）つてきた久美子（くみこ）は、生まれて来る子（こ）の栄養（えいよう）不足（ふそく）が心配（しんぱい）で、少しでも食（く）べられるよう工夫（くわふ）した。わざと焦（こ）げを作り、お櫃（ひつ）に移（うつ）す時（とき）に釜（かま）の底（そこ）に残（のこ）しておき、最後にそれをさらえて食（く）べたりした。それでも妊娠（ていねん）五（ご）力（りき）月（げつ）へらいの時（とき）、栄養失調（えいようしじよう）で体（からだ）が痒（かゆ）くなった。そんな久美子（くみこ）を見て夫（つま）は顔（かお）を曇（くも）らせてある決断（けつだん）をしてくれた。（つづ）

みなと珍喜劇

読者からの聴き取りを元に、港区の作家・青木健一さんがつづる可笑しくも温かな人間喜劇。第一弾は、長崎生まれの男性が辿った波乱万丈の、名付けて「博打&奉仕人生」。

長崎は今日も晴れた

(一)

もと港区民の私、渡部好雄は現在、大阪市鶴見区諸口の市営住宅に住んで七年になります。高齢ゆえ年々体力の衰えを自覚し、十数年間、苦楽を共にした九十一歳の連れ合いを近くの病院に見舞い、自らも介護サービスを受ける毎日ですが、わずかな年金を糧に人並みの老後を送っていることに心から感謝しています。

そんな生活の中、いつも私の思い出話を聴いてくれる港区三先の木村豊治という友人が、それを「文字に残したら」と勧めてくれました。確かに私は自分でも、起伏ある人生を生きてき

たように思っていました。そんな経験は自分の胸にしまったまま墓に入ると決めていたのです。が、熱心な勧めに心が動きました。

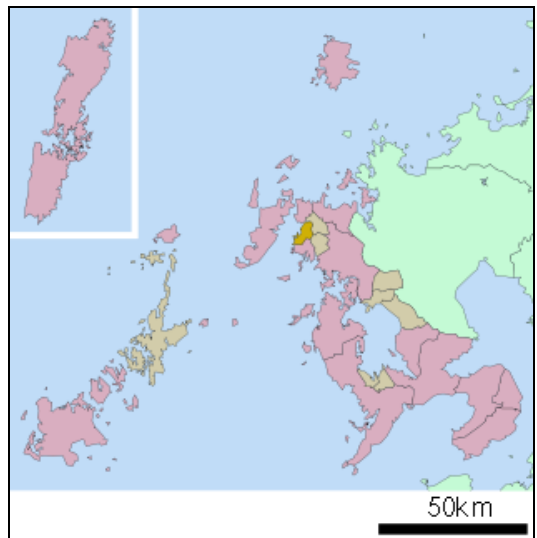
故郷・長崎での幼少期から青春期。誘われるように出てきた大阪でのその後。炭鉱労働から港湾労働へ、博打暮らしからお尋ね者へ、建設労働から更生施設暮らしへ…。常人の全うな歩みとはほど遠い足取りながら、そこには、皆が貧しいながらも助け合って生きた心豊かな人間関係があり、愛と涙と笑いに満ちた人間ドラマがありました。いわば戦争という悲劇を挟んで皆が必死に生き抜いた、昭和という時代が映されていたように思います。こうした一人の名もなき人間の歴史から、今の難しい平成の世を生きる人たちが少しでも何かを感じてくれたら——そう考え、読者の皆さんに思い切って語ってみることにしたのです。

一、長崎での幼少く少年期

●長崎県の炭鉱村に生まれる

私は昭和四一九五年八月十八日、長崎県北松浦郡鹿町村大加勢区(現・佐世保市)に生

←長崎県北松浦郡鹿町村の位置(柿色部分)



まれました。五人兄弟姉妹(女・男・男・男・女)の第三子で次男でした。一番上の姉は大正十三(二九)四年生まれで、一番下の妹まで十一歳の年齢差がありました。

鹿町村は長崎県の北方、北松浦半島の西の端に位置する農業と漁業と炭鉱の村。当時の人口は約二万人、世帯数は約一千。東西一キロ、南北十キロほどの広さの中に大加勢、加勢、歌ヶ浦、深江、北鹿町、南鹿町など十二の地区がありました。また村内には四つの炭鉱があり、その

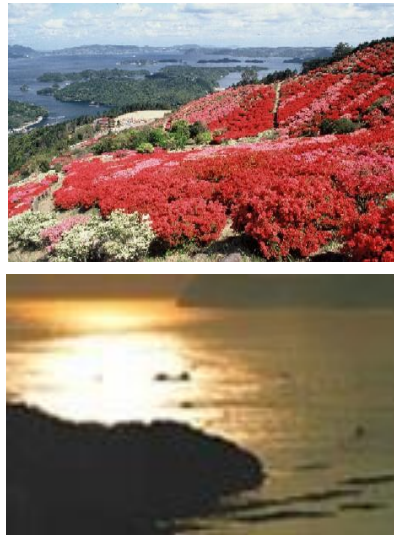
最大のものが大加勢の炭鉱で、当時およそ千五百人の坑夫が在籍。国内でも他に類を見ないきょうねけ(坑夫)強粘結炭の産地として名を馳せていました。

昭和二十二年(一九四七年)十月一日に町制施行で鹿町町となり、平成二十二年(二〇一〇年)三月三十一日に町村合併で佐世保市へ編入合併され、今は自治体としては消滅しています。

● 父と母のこと

父は明治二十八年(一八九三年)宮崎県の生まれ。士族の家柄でしたが、明治の「四民平等」政策で没落し、内藤という元藩士が経営する銅山で子供時代を過ごしたそうです。「納屋」または「飯場」と呼ばれた共同住宅には、経営者に雇われた親方(飯場頭)の監督のもと、所帯持ちも独身も分け隔てなく共同生活を送っていました。が、骨組みだけのひどく粗末な造りで、丸太組みの上に筵をかぶせただけの天井からは鼠が落ちてくることもしばしばだったそうです。「納屋制度」と呼ばれる、そんな劣悪な環境から抜け出したいと思ったのか、あるいはそんな境遇への反発からか、まだ伊藤という人物からの誘いもあって、父は十歳ぐらいの時「浴衣に

← 鹿町名所・長串山のつつじと海辺の夕景



革靴」という突飛な出で立ちで長崎へ出て来たと書いていました。

一方、母は明治二十九年(一八九〇年)長崎県の生まれ。七つの時から県内の炭坑で働き、「スツ」といつ竹で編んだ袋に石灰を入れて運んだりしたそうです。

その後、父はこの鹿町村の炭鉱住宅で坑夫として働き、その中で母と知り合って結婚。三十六歳で私が生まれたという訳です。この炭鉱住宅は、父が故郷の宮崎県で過ごした銅山住宅と同じように、ひどく粗末な造りで、竹組みの上に新聞紙をかぶせただけの天井からは、やはり鼠が時々落ちてきました。

私が歌ヶ浦尋常小学校低学年の時、父は四十四〜五歳で、カトリック関係者などに多い納屋頭(坑夫たちの世話役を父も務めていた)だが、親分肌で面倒見が良かったためか、坑夫仲間にも推されて村会議員に立候補し、当選したのです。ちなみに当時の選挙権は二十五歳以上の男子に限られ、議員数は二十四任期は六年。父はこの村議を戦後まで二期務めました。

● ガキ大将だった

私にはこの父が自慢でした。が、そんな誇らしい気持ちも手伝ってか、とにかく素行が荒くいわれる「ガキ大将」で通っていました。体は小さかったけれど、どんなことがあっても決して泣かなかったこと、また墓場など皆が怖がる所へも平気で出入りできたこと、さらにはこの炭鉱町では生活助け合いは専らその上がり(儲け)で賄われるほど日常の風景だった花札賭博に小さい頃から興味を示し、ひと勝負打ってから登校するなど博徒顔負けの態度をとっていたこともあって、皆から一目置かれたのだと思います。それで「学年上の子らも自分になつて私に随っていました。」

文化的イベント案内

みなとカルチャー

● 港図書館

①あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ
毎月第一金曜日(二月は四日)十一時～十一時半
に絵本コーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、
赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週のお
たのしみ会より赤ちゃん向け。申込不要②おた
のしみ会Ⅱ毎週水曜日十五時半～十八時に絵本
コーナーで。幼児を対象に絵本の読み聞かせや
紙芝居、パネルシアターなど。申込不要③図書
展示「身体を動かしてみませんかの本展Ⅱ三月
三十一日(木)まで開催中。リジオ体操やウォ
ーキングやストレッチなど簡単にできる運動の
本を展示④ミニ図書展示「港図書館に寄贈して
いただいた時代小説文庫本」展Ⅱ三月三十一日
(木)まで開催中。時代小説は幅広く人気があり、
よく利用されている。「寄贈いただいた皆様、
どうもありがとうございます」(港図書館職員)
▽ ☎ 六五七六・一三三四六。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「第七回

定期演奏会」 「飯守が紡ぐ誠実な響き」…音楽

への感謝に満ちたブルックナー」と題し、同楽団

の桂冠名譽指揮者・飯守泰次郎さん(一九六二

年桐朋学園大学音楽科卒、二〇二二年度文化功

労者、日本芸術院会員が、ワグナーの作風を徹

底的に追求したオーストリアの作曲家ブルック

ナー(一八四一～一八九六)の交響曲などを贈る

好評の「飯守泰次郎&関西フィル・ブルックナー

交響曲全曲ツィクルスの第八回。演奏曲目は、

①モーツァルト:ピアノ協奏曲第21番 ハ長調

K. 467(現代フランスを代表するピアニスト

の一人、アレクサンドル・タロウさんがピアノ独

奏②ブルックナー:交響曲第6番 イ長調。三月

五日(土)十四時からザ・シンフォニーホール(J

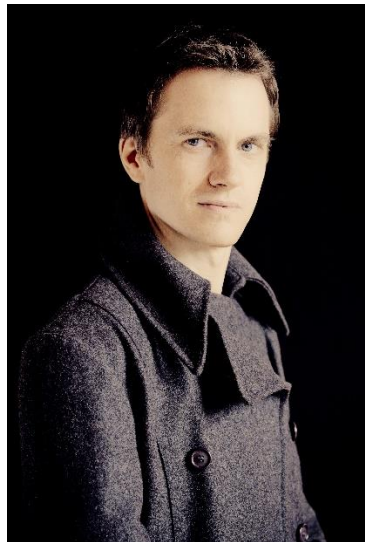


→指揮を担当する関西フィル桂冠名譽指揮者・

飯守泰次郎さん ©武藤章

「ピアノ独奏を担当するアレクサンドル・タロ

ーさん ©Marco Borggreve)



R大阪環状線福岡駅「から北へ徒歩約七分で。

十三時四十分から指揮者フレートク。S席八千

円、A席四千五百円、B席三千円、C席千円、

学生席(千五歳以下)千円。全席指定・消費税込。

☎ 六五七七・一三八一。

● 井天町ORC200生涯学習センター「春の

センターまつり」 同センターの生涯学習グル

ープが日頃の成果を発表する恒例イベント。「み

んなで咲かせる!笑顔の輪!」をテーマに三月

一日(火)～二日(月)祝に開催。一日体験教

室(フランス・ジャズダンス体操・気功・ヨガ・

太極拳・中国語・韓国語・朗読・民謡・コーラス・オ

カリナ・胡・バルーンアートなど三十一グループ

←好評だった昨年の「春のセンターまつり」から。上は作品展示、下はステージ発表の模様



プ・三十九教室は全期間中(日程・時間帯は各教室による)。作品展示(日本画・絵でがみ・写真・てん刻・海外鉄道・絵画・きめこみ手芸・押し花・デコパージュ・シヤドボックス・フラワーアレンジメント・川柳・ロボット工作など)十四グループは(三〇(木)〜三二(日)の九時半〜十一時(日・祝は十八時まで)。ステージ発表(大正琴・ダンス・尺八・喜劇・ラダンス・太極拳・朗読・コンサート・ゴスペル・気功・民謡・オカリナ・リコーダー・二線など)二十グループは六日(日)十一時〜十八時十五分。 ☎六五七七・一四二〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」 旧・弁天町市民学習センター時

←オーク弁天寄席にレギュラー出演する笑福亭學光さん(上)と旭堂南麟さん(下)



代から親しまれた人気イベントの再開第二十二回、通算第五十四回。二月二十四日(水)十九時〜二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講談師、旭堂南陵門下)をレギュラーに、今回は桂文昇さん(大阪市出



→第二五四回オーク弁天寄席に出演する桂文昇さん(上)と笑福亭瓶吉さん(下)

身、文枝一門、笑福亭瓶吉さん(尼崎市出身、松鶴一門、鶴瓶の弟子)も。先着百二十名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。 ☎六五七七・一四二〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター・弁天

シネマ倶楽部『マルタの鷹』 「心に残る多作

映画を低料金で多くの市民にと旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第十回、通算第四十三回。―サンフランシスコで探偵事務所を開いているサム・スヘッドは、ワンダリーという女性から、サム・スヘッドという人物に尾行されているから救っ



→弁天シネマ倶楽部『マルタの鷹』から

てほしいと頼まれる。スピードの相棒のアーチャーが、彼女の美しさに惹かれて買ってしまった。しかしその夜、アーチャーはサースビーと共に死体となって発見される。十八世紀にマルタ騎士団がスヘイン王に献上するために作った「マルタの鷹」と呼ばれる純金の彫像を巡る欲望の渦に巻き込まれていく。探偵映画の傑作。

監督はジョン・ヒューストン。出演はハンフリー・ボガード、メアリー・アスター、グレイセス・ジョージ他。一九四二年米、モノクロ、一〇〇分。三月二十日(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。☎六五七七・一四二〇。

● **ねじやらしのシャンテ☆カフェ** 懐かしい歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四日曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約一時間。新オリジナル歌集を頒布中。参加費千円(税込)。一月は二十七日。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」(井大田四・一一・一一・三〇〇) ☎六五五六・六八二八、<http://neccojyaraa.sii>。

↑過去の「ねじやらしのシャンテ☆カフェ」



jimdo.comへまで。

● **ガットネロ** 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦由美子(ゆみこ)さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」「HAMORR・BEEのつた★カフェ」「クラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽HAMORR・BEEのつた★カフェⅡ「いろ・色・彩でつづる日本の歌をテーマに若手フェーブルデュオ(中川公志(こうじ)さんと小原有貴(ありき)さん)が日本の懐かしい歌を。第二十八回(全五回、開催中)はあと二月十九日(金)十五時と十九時から。各六十分、休憩なし。会費各千五百円(一飲物付)、要予約▽松浦由美子のシャンソン百物語Ⅱ第九十五回は「愛と平和を歌つ」と題して三月二十八日(日)十五時から松浦由美子さんが藤田穂(ほ)さん

のピアノで「脱走兵」ボン・ボワイヤージュ「水に流して」「バラ色の人生」などを歌つ。会費千五百円(一飲物付)▽クラシックカフェⅡ第八十六回は「大作曲家の円熟期の名曲を集めて」と題して三月四日(金)十九時から井上春緒(はるお)さん(クラリネット)・十宮崎剛(たけし)さん(ピアノ)がモーツァルト・クラリネット協奏曲K.V. 622(主曲)、シューマン::幻想小曲集作品73、ベートーヴェン::ピアノソナタ第三1番作品110などを演奏。会費千円(定員十五名、要予約)▽TEN Goso LiveⅡ三月十三日(日)十三時(元寇)と十八時半。後藤ミホ(みほ)さん(アコーディオン)×天野紀子(のりこ)さん(バイオリン)。料金二千五百円(飲物別)▽詳細はガットネロ(天王寺



→ガットネロを主宰する松浦由美子(ゆみこ)さん「つた☆カフェ」出演のHAMORR・BEE(下)

に特集上映。二月十五日以降の上映作品(※印は初デジタル復元版)は、『処刑の部屋』『日本橋』

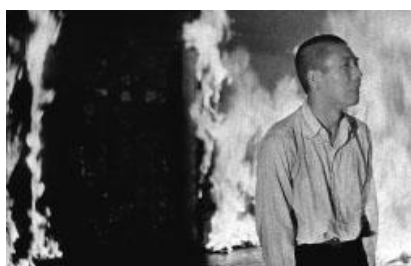
『満員電車』 『東北の神武たち』^{ずんむ} 『穴』 『炎上』

※『あなたと私のロコ』葉さゆりなら、今日は『野火』のび
 ※『女経』じよあゆみ
 ※『おひつ』愛のつひくま
 ※『私』

は『歳』（※）『雪之丞変化』（※）『太平洋ひと
りぼっち』『ど根性物語 銭の踊り』『犬神家の
いぬがみけ』

一族』(※)『悪魔の手毬唄』『獄門島』『細雪』
『おはん』『竹取物語』『天竺伝説殺人事件』

『市川崑物語』（ドキュメンタリー）。当日一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館（西



の最新の陶芸作品(信楽粘土・萩粘土など)を使用した飾り物・食器などや絵画作品(水彩・アクリル・墨・鉛筆など)による風景・静物などを展示

区九条一・二〇・二四、地下鉄中央線九条駅⑥
 出口歩三分、阪神なんば線九条駅②出口歩三分、
 六五八二・二四二六へ。

●ぎやらりー&かふえ風庵 上江洲茂夫 陶
 ふうあん うえずしげお
 芸・絵画展 工業デザイナーから作陶作画に

挑戦し、「白化粧の線彩の変化を追求」「自然の美を求めて」をコンセプトに大正区で陶芸・絵画教

室「アトリエウエス」を主宰する上江洲茂夫さん

の最新の陶芸作品（信楽粘土・萩粘土などを使

用した飾り物・食器など）や絵画作品（水彩・アクリル画）など。

リル・墨・鉛筆などによる風景・静物などを展示

記念写真 は 写真館 で

誕生日も父の日も



お宮参りも百日も

みなさまの写真スタジオ

三上写真館

Photo Studio **MU**

磯路2-3-14 (市岡中前) 木曜定休

0120-813788



三上写真館

至弁天口頭

港區民会 ● 港消防署
センター ● 中央大通り
至朝陽橋 ● 三社神社

● 市岡中学

至みさと通り

弁天町駅

▲

<http://www.photostudio-mikami.com>

風庵で開催中の「上江洲茂夫 陶芸・絵画展」に展示されている陶芸作品^上と絵画作品^下



月 二十五日(木)まで好評開催中。風庵は南
國三・二・一〇(繁栄商店街内)、☎四九八
五九八、十時〜十八時開館(日曜定休)

ひとくちPR

(二行)税込二〇〇〇円、写真は別料金相談

● **そろばん学習で子どもが変わる！** 右脳活性

見直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検索** (夕四 一・一

三七 三津神社西側 **公**五七二・六八七七)。

● **放課後・春・夏・冬休みは児童保育へ** 入所児童

集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇二三四(西原)か**公**五七二・六八四三あおぞら学童。

● **介護はお任せ** ①介護や老いの相談②手続き代行③サービスは送迎付きで入浴・食食・

手芸など④訪問介護は買物・掃除・通院など。NPOみなと合同ケアセンター(南市国二・六・二六、**公**五八三・四八八〇)。

● **港ボクシングジム** 女性も子供も楽しく親切指導。月会費八千円(三カ月期限十枚綴り券

八千円)。入会金二万円を月会費半額。練習は月水金十九時半〜二十時半。三先一・二三・九。

● **囲碁クラブ** 毎月第一・四土曜の午後二〜五

時に港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)会議

←港ボクシングジムのトレーニング風景(三先

①と囲碁クラブの対局風景(港近隣センター)



室で。参加費一回五百円。家族的雰囲気。**公**九〇・二二九八・八四四三瀬戸。

● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者

手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所・相談支援事業所わたぼうし(夕四 一・一八・一〇、**公**五七六・〇二〇三、FAX五七六・〇二〇三)。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛

も掛も敷も熟練職人が心込めて仕立て替えます。シングル掛(敷)二万円。理想の枕作り、フライダルもお任せ。ふとん館ひらのや(繁栄商店街フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

● **石炭倉庫のレッスン** 吉津たかし先生の所

作レッスン(毎週水曜十九〜二十一時、志保先

生の歌唱レッスン(毎週火曜十九〜二十一時)、

あながいおまるの朗読教室(毎週水曜十四〜十六時)、河野明夫の三味線を習おう(毎月第一・第三月曜十八時〜十九時半)。一回 千円。波除六・五・一八、**公**六五八一・〇六六四。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送お

出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント(八幡屋一・四・八、入舟公園前、大阪信全横、十〜十八時営業(日月定休)。

読者プレゼント

※いずれもハガキに当月号の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● **関西フィル「第七」定期演奏会** (みな

とカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「オーク弁太寄席」** (みなとカルチャー)招待

券をへア一組に。

● **石炭倉庫『お笑いカンツォーネ寄席』** (演劇

ガイド)招待券をへア一組に。

● **ガットネロ『シャノンソノ白物語』** (みなとカ

ルチャー)招待券をへア一組に。